

琉球大学大学院教育学研究科規程

平成2年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学組織規則第29条第4項の規定に基づき、琉球大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、琉球大学大学院教育学研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目、単位、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 本研究科は、教員としての基礎的資質のうえに、学校教育に関するより高度な理論的基盤及び理論と実践に裏打ちされた実践的指導力を培い、未来を担う子どもたちの教育に専門的力量とリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とする。

(専修及び領域)

第3条 本研究科の修士課程の専攻に、次の専修及び領域を置く。

学校教育専攻	学校教育専修	
教科教育専攻	人文社会教育専修	国語教育領域 社会科教育領域 英語教育領域
	自然科学教育専修	数学教育領域 理科教育領域
	芸術表現教育専修	音楽教育領域 美術教育領域
	生活科学教育専修	技術教育領域 家政教育領域
	保健体育専修	

(各専攻の目的)

第4条 本研究科の各専攻の目的は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 学校教育専攻は、教育学及び心理学の専門知識を修得し、幅広い視野と見識を持って、多角的・多元的に学校教育を研究し、実践力を高めたいという意欲を有する人材、または「特殊教育」から「特別支援教育」へという動向を見据えながら、LD・ADHD・高機能自閉症等を含む障害児の、教育の歴史、原理、教育課程、指導法及び、心

理、臨床、病理等に関する高度な知識と実践力を希求する人材の養成を目的とする。

(2) 教科教育専攻は、各教科領域に関する高度な専門知識と技能を有し、教育現場における教科の高度な実践力を有する人材の養成を目的とする。

(3) 高度教職実践専攻は、沖縄県を中心とした教育の諸課題に対して、問題や課題を自ら捉え、深め、解決策を策定し、行動を起こし、その結果を振り返り、次の思考や行動につなげる力としての「合理的・反省的思考力」を中核とした高度な専門性と実践的指導力を備えた教員養成を目的とする。

(指導教員)

第5条 学生の修学及び研究の指導のため、指導教員を置く。

2 指導教員は、本研究科の教育研究の指導を行う専任の教授、准教授及び講師をもって充てる。ただし、高度教職実践専攻の指導教員には助教をもって充てることができる。

3 指導教員は、学生の修学及び研究を指導し、併せて学生の授業科目の履修等に関し適切な助言を行う。

4 学校教育専攻及び教科教育専攻の学生は、入学後所定の期日までに指導教員を定め、書面（別紙様式1）により、研究科長の承認を得なければならない。

5 高度教職実践専攻においては、毎年度、高度教職実践専攻会議において当該年度の入学学生10名に対して1名の割合で年次指導教員を定める。

6 学校教育専攻及び教科教育専攻における指導教員の変更は、原則として認めない。ただし、研究科長は、特別の事情が生じた場合に限り、研究科委員会の議を経て変更を認めることができる。（別紙様式2）

7 学校教育専攻及び教科教育専攻の指導教員は、各年度の所定の期日までに、指導する学生の研究指導計画を研究科長に届け出なければならない。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第6条 指導教員が必要と認めるときは、大学院学則第17条の定めるところにより、他の大学院との協議に基づき、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる。

2 指導教員が教育研究上必要と認めるときは、琉球大学大学院（以下「大学院」という。）の他の研究科及び琉球大学の学部の授業科目を指定し、学生に履修させることができる。ただし、学部の授業科目の単位は本研究科の修了要件とはしない。

3 第1項及び前項の定めるところにより履修した授業科目の単位は、研究科委員会の議を経て、修士課程の場合は10単位を超えない範囲で、専門職学位課程の場合は24単位を超えない範囲で、それぞれ第11条に定める科目の単位に含めることができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第7条 大学院学則第18条に基づき、学生が職業を有している等の事情により、大学院

学則第11条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、大学院学則第12条に定める在学期間を超えることはできない。
- 3 長期履修の取扱いについては、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第8条 本研究科が必要と認めたときは、大学院学則第19条の規定に基づき、学生が大学院に入学する前に大学院（他の大学院を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本研究科に入学した後の本研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(授業科目等)

第9条 本研究科における授業科目及び単位数等は、別表のとおりとする。

(教育方法)

第10条 本研究科の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行う。

- 2 本研究科における授業及び教育研究の指導は、研究科委員会が教育上特に必要と認める場合に限り、別に指定する特定の時間又は時期に行うことができる。

(履修方法)

第11条 学校教育専攻及び教科教育専攻の学生は、次の基準に従って合計30単位以上を修得しなければならない。

専攻	教育の基礎に関する科目	教育実践に関する科目	各専攻に関する専門科目	課題研究	自由選択科目	計
学校教育専攻	4	6	12又は16	4	4又は0	30
教科教育専攻	4	6	12	4	4	30

- 2 高度教職実践専攻の学生は、次の基準に従って合計48単位以上を修得しなければならない。

専攻	科目	共通科目	選択科目	実習科目	課題研究	計
高度教職実践専攻		20	10	10	8	48

(履修手続)

第12条 学生は、履修しようとする授業科目を当該授業科目担当教員の承認を得て、各学期の初めに所定の様式により研究科長に届け出なければならない。

(研究課題)

第13条 学生は、入学後所定の期日までに、指導教員の承認を得て研究課題を定め、研究科長に届け出なければならない。

(成績評価基準等の明示)

第14条 授業科目等の計画、方法、内容、成績評価基準等は、学生に対し、学期の初めに明示する。

(他の大学院等における研究指導)

第15条 学生は、研究科委員会の承認を得て、大学院学則第25条の定めるところにより、他の大学院又は研究所等において研究指導を受けることができる。

(単位の認定)

- 第16条 各授業科目の単位修得の認定は、試験又は研究報告等により担当教員が行う。
- 2 病気その他やむを得ない理由により、試験を受けることができなかつた者については、追試験を行うことができる。
 - 3 追試験の時期は、研究科委員会が別に定める。
 - 4 試験を受けて不合格になつた者についての再試験は、行わない。

(成績の評価)

- 第17条 成績の評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加などを考慮して行う。ただし、授業を3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
- 2 成績の評価は、A、B、C、D、及びFの5種の標語をもって表し、A、B、C、及びDを合格とし、Fを不合格とする。

(学位論文等及び最終試験)

- 第18条 学生は、研究科委員会が別に定める期日までに、指導教員の承認を得て学位を請求するための論文または特定課題研究報告書（以下「学位論文等」という。）を研究科長に提出しなければならない。
- 2 前項に規定するもののほか、学位論文等の審査及び最終試験の実施に関し必要な事項は、研究科委員会が別に定める。

(修士課程修了の要件)

第19条 修士課程修了の要件は、本研究科に2年以上在学し、第11条に定める単位を修得し、かつ、学位論文等の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本研究科に1年以上在学すれば足りるものとする。

(専門職学位課程修了の要件)

第20条 専門職学位課程修了の要件は、本研究科に2年以上在学し、第11条に定める単位を修得することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本研究科に1年以上在学すれば足りるものとする。

(学位の授与)

第21条 修士課程を修了した者には修士(教育学)の学位を、専門職学位課程を修了した者には教職修士(専門職)の学位を授与する。

(特別聴講学生)

第22条 本研究科において、特定の授業科目を履修しようとする他の大学院の学生があるときは、当該大学院との協議に基づき、その履修を認めることができる。
2 前項により授業科目の履修を認められた学生は、特別聴講学生と称する。

(科目等履修生)

第23条 本研究科の科目等履修生として入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。
(1) 大学を卒業した者
(2) 前号と同等以上の学力があると認められる者

(研究生)

第24条 本研究科の研究生として入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。
(1) 修士の課程に在学する者又は修士の学位を有する者(修士の学位に相当する学位を有する者を含む。)
(2) 前号と同等以上の学力があると認められる者

(雑則)

第25条 この規程に定めるもののほか、本研究科に関し必要な事項は、研究科委員会が別に定める。

(改廃)

第26条 この規程の改廃は、研究会委員会の議を経なければならない。

附 則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則 (平成12年10月25日)

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年2月28日)

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年5月28日)

この規程は、平成15年5月28日から施行する。

附 則 (平成16年5月26日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年2月22日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年4月1日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年6月27日)

この規程は、平成19年6月27日から施行する。

附 則 (平成24年6月24日)

この規程は、平成21年6月24日から施行する。

附 則 (平成22年2月24日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年1月27日)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年2月24日)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月22日）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年2月21日）

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

この規程に定める事項のうち、専門職学位課程（教職大学院）固有の事項に関しては、専門職学位課程（教職大学院）に係る各種法令、文部科学省通達等を適用する。ただし、これによりがたい場合における必要な事項については、高度教職実践専攻が別に定める。

附 則（平成30年6月27日）

この規程は、平成30年6月27日から施行する。

附 則（平成31年3月19日）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 特別支援教育専攻は、改正後の第3条の規定にかかわらず、平成31年3月31日に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

[別表]

専攻	専修	授業科目	単位	週時間	年受次講	学期	備考
課程共通		学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
		学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
		協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
		協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
学校教育専攻	教育学コース	教育史特論	2	2-0	1・2	前	学校教育専攻に関する科目
		教育史特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
		教育哲学特論	2	2-0	1・2	前	〃
		教育哲学特論演習	2	0-2	1・2	前	〃
		教育行政学特論	2	2-0	1・2	前	〃
		教育行政学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
		学校経営学特論	2	2-0	1・2	前	〃
		学校経営学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
		学校図書館メディア特論	2	2-0	1・2	前	〃
		学校図書館メディア特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
		教育社会学特論	2	2-0	1・2	前又は後	〃
		教育社会学特論演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
		教育方法学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
		教育方法学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	後	〃
	教育方法学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前	〃	
	教育方法学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃	
	道徳教育特論	2	2-0	1・2	前	〃	
	道徳教育特論演習	2	0-2	1・2	後	〃	
	幼児教育特論	2	2-0	1・2	前	〃	
	幼児教育特論演習	2	0-2	1・2	後	〃	
	幼児心理特論	2	2-0	1・2	前	〃	
	幼児心理特論演習	2	0-2	1・2	後	〃	
	心理学コース	教育心理学特論	2	2-0	1・2	前	〃
		教育心理学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
		キャリア発達特論	2	2-0	1・2	前	〃
		キャリア発達特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
学習心理学特論		2	2-0	1・2	前	〃	
学習心理学特論演習		2	0-2	1・2	後	〃	
学校臨床心理学特論		2	2-0	1・2	前	〃	
学校臨床心理学特論演習		2	0-2	1・2	後	〃	
言語心理学特論		2	2-0	1・2	後	〃	
児童心理学特論		2	2-0	1・2	前	〃	
児童心理学特論演習		2	0-2	1・2	後	〃	

専攻	専修	授 業 科 目	単 位	週時間	年 受 次 講	学 期	備 考
学 校 教 育 専 攻	教 育 学 ・ 心 理 学 コ ー ス 共 通	教育実践の研究Ⅰ	2	2-0	1・2	後	教育実践に関する科目
		教育実践の研究Ⅰ（小）	2	2-0	1・2	前	〃
		教育実践の研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前	〃 昼（毎年開設）夜（偶数年開設）
		教育実践の研究Ⅱ（小）	2	2-0	1・2	後	〃 昼（毎年開設）夜（奇数年開設）
		課題研究Ⅰ	2	0-2	1	通年	課 題 研 究
		課題研究Ⅱ	2	0-2	2	通年	〃
	特 別 支 援 教 育 コ ー ス	特別支援教育特論A	2	2-0	1・2	前	特別支援教育に 関する科目
		特別支援教育特論B	2	2-0	1・2	後	〃
		知的障害教育学特論	2	2-0	1・2	前	〃
		知的障害教育学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
		障害児心理学特論	2	2-0	1・2	前	〃
		障害児心理学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
		障害児生理・病理特論	2	2-0	1・2	前	〃
		障害児生理・病理特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
		障害児療育特論	2	2-0	1・2	前	〃
		軽度発達障害児支援特論	2	2-0	1・2	後	〃
		個別移行支援計画特論	2	2-0	1・2	前	〃
		職業リハビリテーション特論	2	2-0	1・2	前	〃
		地域支援ネットワーク特論	2	2-0	1・2	後	〃
		特別支援組織教育学	2	2-0	1・2	前	〃
		障害児臨床心理学特論	2	2-0	1・2	前	〃
		障害児教育の実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	後	教育実践に関する科目
		障害児教育の実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
		障害児教育の実践研究Ⅲ	2	2-0	1・2	後	〃
		障害児教育の実践研究Ⅳ	2	2-0	1・2	後	〃
		障害児教育の実践研究Ⅴ	2	2-0	1・2	後	〃
		課題研究ⅠA～E	2	0-2	1	通年	課 題 研 究
		課題研究ⅡA～E	2	0-2	2	通年	〃

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講年次	学期	備 考
課程共通			学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教科教育専攻	人文社会教育専修	国語教育領域	日本語学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	教科教育専攻に関する科目
			日本語学特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本語学特論演習ⅠA	2	0-2	1・2	通年	〃
			日本語学特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本語学特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本語学特論演習ⅡA	2	0-2	1・2	通年	〃
			日本語学特論ⅠC	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本語学特論ⅠD	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本語学特論演習ⅠB	2	0-2	1・2	通年	〃
			日本語学特論ⅡC	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本語学特論ⅡD	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本語学特論演習ⅡB	2	0-2	1・2	通年	〃
			言語事項特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			言語事項特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			言語事項特論演習ⅠA	2	0-2	1・2	通年	〃
			言語事項特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			言語事項特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			言語事項特論演習ⅡA	2	0-2	1・2	通年	〃
			言語事項特論ⅠC	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			言語事項特論ⅠD	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			言語事項特論演習ⅠB	2	0-2	1・2	通年	〃
			言語事項特論ⅡC	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			言語事項特論ⅡD	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			言語事項特論演習ⅡB	2	0-2	1・2	通年	〃
			言語文化特論ⅠA	2	2-0	1・2	前	〃
			言語文化特論ⅠB	2	2-0	1・2	後	〃
言語文化特論ⅡA	2	2-0	1・2	前	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
教 科 教 育 専 攻	人 文 社 会 教 育 専 修	国 語 教 育 領 域	言語文化特論ⅡB	2	2-0	1・2	後	教科教育専攻に関する科目
			言語文化特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			言語文化特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			地域言語文化特論ⅠA	2	2-0	1・2	前	〃
			地域言語文化特論ⅠB	2	2-0	1・2	後	〃
			地域言語文化特論ⅡA	2	2-0	1・2	前	〃
			地域言語文化特論ⅡB	2	2-0	1・2	後	〃
			地域言語文化特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			地域言語文化特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			日本古典文学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前	〃
			日本古典文学特論ⅠB	2	2-0	1・2	後	〃
			日本古典文学特論ⅡA	2	2-0	1・2	前	〃
			日本古典文学特論ⅡB	2	2-0	1・2	後	〃
			日本古典文学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			日本古典文学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			伝統的な言語文化特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			伝統的な言語文化特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			伝統的な言語文化特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			伝統的な言語文化特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			伝統的な言語文化特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			伝統的な言語文化特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			日本近代文学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本近代文学特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本近代文学特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本近代文学特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			日本近代文学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			日本近代文学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			現代文学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			現代文学特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			現代文学特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			現代文学特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			現代文学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
現代文学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃			
漢文学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	〃			
漢文学特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
教 科 教 育 専 攻	人 文 社 会 教 育 専 修	国 語 教 育 領 域	漢文学特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	教科教育専攻に関する科目
			漢文学特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			漢文学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			漢文学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			漢字文化特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			漢字文化特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			漢字文化特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			漢字文化特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			漢字文化特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			漢字文化特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			国語科教育特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			国語科教育特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			国語科教育特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			国語科教育特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			国語科教育特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			国語科教育特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			初等国語科教育特論ⅠA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			初等国語科教育特論ⅠB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			初等国語科教育特論ⅡA	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			初等国語科教育特論ⅡB	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			初等国語科教育特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	通年	〃
			初等国語科教育特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	通年	〃
			国語教育特別研究ⅠA	2	2-0	1・2	前	〃
			国語教育特別研究ⅠB	2	2-0	1・2	後	〃
			初等国語教育特別研究ⅠA	2	2-0	1・2	前	〃
			初等国語教育特別研究ⅠB	2	2-0	1・2	後	〃
			国語科授業研究	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			国語科教材開発	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			初等国語科授業研究	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			初等国語科教材開発	2	2-0	1・2	前又は後	〃
課題研究Ⅰ	2	0-2	2	前	課 題 研 究			
課題研究Ⅱ	2	0-2	2	後	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講年次	学期	備 考
	課程共通		学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教科教育専攻	人文社会教育専修	社会科学教育領域	社会科教育特論ⅠA	2	2-0	1・2	前・後	教科教育専攻に関する科目
			社会科教育特論ⅠB	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論ⅠC	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論ⅠD	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論演習ⅠA	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論演習ⅠB	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論演習ⅠC	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論演習ⅠD	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論ⅡA	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論ⅡB	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論ⅡC	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論ⅡD	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論演習ⅡA	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論演習ⅡB	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論演習ⅡC	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会科教育特論演習ⅡD	2	0-2	1・2	前・後	〃
			地域学習特論A	2	2-0	1・2	前・後	〃
			地域学習特論B	2	2-0	1・2	前・後	〃
			地域学習演習A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			地域学習演習B	2	0-2	1・2	前・後	〃
			歴史学特論ⅠA(日本史)	2	2-0	1・2	前・後	〃
			歴史学特論ⅠB(日本史)	2	2-0	1・2	前・後	〃
			歴史学特論演習ⅠA(日本史)	2	0-2	1・2	前・後	〃
			歴史学特論演習ⅠB(日本史)	2	0-2	1・2	前・後	〃
歴史学特論演習ⅠC(琉球史)	2	0-2	1・2	前・後	〃			
歴史学特論演習ⅠD(琉球史)	2	0-2	1・2	前・後	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講年次	学期	備 考
教科教育専攻	人文社会教育専修	社会科学教育領域	歴史学特論ⅡA(東アジア史)	2	2-0	1・2	前・後	教科教育専攻に関する科目
			歴史学特論ⅡB(東アジア史)	2	2-0	1・2	前・後	〃
			歴史学特論演習ⅡA(東アジア史)	2	0-2	1・2	前・後	〃
			歴史学特論演習ⅡB(東アジア史)	2	0-2	1・2	前・後	〃
			歴史学特論演習ⅡC(東アジア史)	2	0-2	1・2	前・後	〃
			歴史学特論演習ⅡD(東アジア史)	2	0-2	1・2	前・後	〃
			人文地理学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前・後	〃
			人文地理学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前・後	〃
			人文地理学特論演習A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			人文地理学特論演習B	2	0-2	1・2	前・後	〃
			人文地理学特論演習C	2	0-2	1・2	前・後	〃
			人文地理学特論演習D	2	0-2	1・2	前・後	〃
			人文地理学野外調査A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			人文地理学野外調査B	2	0-2	1・2	前・後	〃
			人文地理学野外調査C	2	0-2	1・2	前・後	〃
			人文地理学野外調査D	2	0-2	1・2	前・後	〃
			自然地理学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前・後	〃
			自然地理学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前・後	〃
			自然地理学特論演習A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			自然地理学特論演習B	2	0-2	1・2	前・後	〃
			自然地理学特論演習C	2	0-2	1・2	前・後	〃
			自然地理学特論演習D	2	0-2	1・2	前・後	〃
			自然地理学野外調査A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			自然地理学野外調査B	2	0-2	1・2	前・後	〃
			自然地理学野外調査C	2	0-2	1・2	前・後	〃
			自然地理学野外調査D	2	0-2	1・2	前・後	〃
			政治学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前・後	〃
			政治学特論ⅠB	2	2-0	1・2	前・後	〃
			政治学特論演習ⅠA	2	0-2	1・2	前・後	〃
			政治学特論演習ⅠB	2	0-2	1・2	前・後	〃
			経済学特論A	2	2-0	1・2	前・後	〃

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	備 考
教 科 教 育 専 攻	人 文 社 会 教 育 専 修	社 会 科 教 育 領 域	経済学特論B	2	2-0	1・2	前・後	教科教育専攻に関する科目
			経済学特論演習 I A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			経済学特論演習 II A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			経済学特論演習 I B	2	0-2	1・2	前・後	〃
			経済学特論演習 II B	2	0-3	1・3	前・後	〃
			哲学特論A	2	2-0	1・2	前・後	〃
			哲学特論B	2	2-0	1・2	前・後	〃
			哲学特論C	2	2-0	1・2	前・後	〃
			哲学特論D	2	2-0	1・2	前・後	〃
			哲学特論演習A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			哲学特論演習B	2	0-2	1・2	前・後	〃
			哲学特論演習C	2	0-2	1・2	前・後	〃
			哲学特論演習D	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会学特論A	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会学特論B	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会学特論C	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会学特論D	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会学特論演習A	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会学特論演習B	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会学特論演習C	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会学特論演習D	2	0-2	1・2	前・後	〃
			社会科授業研究 I	2	2-0	1・2	前・後	教育実践に関する科目
			社会科授業研究 II	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科授業研究 III	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育教材開発 I	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育教材開発 II	2	2-0	1・2	前・後	〃
			社会科教育教材開発 III	2	2-0	1・2	前・後	〃
			課題研究 I	2	0-2	1	前	課 題 研 究
			課題研究 II	2	0-2	1	後	〃
			課題研究 III	2	0-2	2	前	〃
			課題研究 IV	2	0-2	2	後	〃

専攻	専修	領域	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	備考
課程共通			学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教科教育専攻	人文社会教育専修	英語教育領域	英語学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	教科教育専攻に関する科目
			英語学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			言語学特論	2	2-0	1・2	前	〃
			言語学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
			英文学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			英文学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前	〃
			英文学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			英文学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
			米文学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			米文学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前	〃
			米文学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			米文学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
			英語科教育研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			英語科教育特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			英語科教育特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前	〃
			応用言語学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			英語科教育研究Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			英語科教育特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			英語科教育特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
			応用言語学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			応用言語学演習	2	2-0	1・2	後	〃
			英語教育授業研究	2	2-0	1・2	前	教育実践に関する科目
			英語教育教材開発	2	2-0	1・2	後	〃
			課題研究Ⅰ	2	2-0	2	前	課題研究
課題研究Ⅱ	2	2-0	2	後	〃			

専攻	専修	領域	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	備考
課程共通			学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教科教育専攻	自然科学教育専修	数学教育領域	代数学特論A	2	2-0	1・2	前又は後	教科教育専攻に関する科目
			代数学特論演習A	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			代数学特論B	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			代数学特論演習B	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幾何学特論A	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幾何学特論演習A	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幾何学特論B	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幾何学特論演習B	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			離散数学特論A	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			離散数学特論演習A	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			離散数学特論B	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			離散数学特論演習B	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			解析学特論A	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			解析学特論演習A	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			解析学特論B	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			解析学特論演習B	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			応用数学特論A	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			応用数学特論演習A	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			応用数学特論B	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			応用数学特論演習B	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			情報数学特論A	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			情報数学特論演習A	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			情報数学特論B	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			情報数学特論演習B	2	0-2	1・2	前又は後	〃
数学教育学特論A	4	2-0	1	通	〃			
数学教育学特論演習A	2	0-2	2	前又は後	〃			
数学教育学特論B	4	2-0	1	通	〃			
数学教育学特論演習B	2	0-2	2	前又は後	〃			

専攻	専修	領域	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	備考
教科教育専攻	自然科学教育専修	数学教育領域	数学教育学特論C	2	2-0	1・2	前又は後	教科教育専攻に関する科目
			数学教育基礎論A	4	2-0	1	通	〃
			数学教育基礎論演習A	2	0-2	2	前又は後	〃
			数学教育基礎論B	4	2-0	1・2	通	〃
			数学教育基礎論演習B	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			数学教育授業研究A	2	2-0	2	前	教育実践に関する科目
			数学教育授業研究B	2	2-0	2	前	〃
			数学教育教材開発A	2	2-0	2	後	〃
			数学教育教材開発B	2	2-0	2	後	〃
			課題研究Ⅰ	2	0-2	1	通	課題研究
			課題研究Ⅱ	2	0-2	2	通	〃

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	備 考
課程 共通			学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教 科 教 育 専 攻	自 然 科 学 教 育 専 修	理 科 教 育 領 域	物理学特論A	2	2-0	1・2	前	教科教育専攻に関する科目
			物理学特論演習A1	2	0-2	1・2	前	〃
			物理学特論演習A2	2	0-2	2	前	〃
			応用物理学特論A	2	2-0	1・2	前	〃
			応用物理学特論演習A1	2	0-2	1・2	前	〃
			応用物理学特論演習A2	2	0-2	2	前	〃
			物理学特論B	2	2-0	1・2	前	〃
			物理学特論演習B1	2	0-2	1・2	前	〃
			物理学特論演習B2	2	0-2	2	前	〃
			応用物理学特論B	2	2-0	1・2	前	〃
			応用物理学特論演習B1	2	0-2	1・2	前	〃
			応用物理学特論演習B2	2	0-2	2	前	〃
			有機化学特論A	2	2-0	1・2	前	〃
			有機化学特論演習A1	2	0-2	1・2	後	〃
			有機化学特論演習A2	2	0-2	2	前	〃
			有機化学特論B	2	2-0	1・2	前	〃
			有機化学特論演習B1	2	0-2	1・2	後	〃
			有機化学特論演習B2	2	0-2	2	前	〃
			無機化学特論A	2	2-0	1・2	前	〃
			無機化学特論演習A1	2	0-2	1・2	前	〃
			無機化学特論演習A2	2	0-2	2	前	〃
			無機化学特論B	2	2-0	1・2	前	〃
			無機化学特論演習B1	2	0-2	1・2	前	〃
			無機化学特論演習B2	2	0-2	2	前	〃
			動物分類生態学特論A	2	2-0	1・2	前	〃
			動物分類生態学特論演習A1	2	0-2	1・2	後	〃
動物分類生態学特論演習A2	2	0-2	2	前	〃			
動物分類生態学特論B	2	2-0	1・2	前	〃			
動物分類生態学特論演習B1	2	0-2	1・2	後	〃			
動物分類生態学特論演習B2	2	0-2	2	前	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
教 科 教 育 専 攻	自 然 科 学 教 育 専 修	理 科 教 育 領 域	植物分類系統学特論 A	2	2-0	1	前	教科教育専攻に関する科目
			植物分類系統学特論演習 A1	2	0-2	1	後	〃
			植物分類系統学特論演習 A2	2	0-2	2	前	〃
			植物分類系統学特論 B	2	2-0	1	前	〃
			植物分類系統学特論演習 B1	2	0-2	1	後	〃
			植物分類系統学特論演習 B2	2	0-2	2	前	〃
			微古生物学特論 A	2	2-0	1・2	前	〃
			微古生物学特論演習 A1	2	0-2	1・2	前	〃
			微古生物学特論演習 A2	2	0-2	2	前	〃
			微古生物学特論 B	2	2-0	1・2	前	〃
			微古生物学特論演習 B1	2	0-2	1・2	前	〃
			微古生物学特論演習 B2	2	0-2	2	前	〃
			地殻進化学特論 A	2	2-0	1・2	前	〃
			地殻進化学特論演習 A1	2	0-2	1・2	後	〃
			地殻進化学特論演習 A2	2	0-2	2	前	〃
			地殻進化学特論 B	2	2-0	1・2	前	〃
			地殻進化学特論演習 B1	2	0-2	1・2	後	〃
			地殻進化学特論演習 B2	2	0-2	2	前	〃
			理科教育特論 A1	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			理科教育特論演習 A1	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			理科教育特論 B1	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			理科教育特論演習 B1	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			理科教育特論 A2	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			理科教育特論演習 A2	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			理科教育特論 B2	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			理科教育特論演習 B2	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			理科教育特別講義 A1	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			理科教育特別講義 A2	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			理科教育特別講義 B1	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			理科教育特別講義 B2	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			理科教育実践研究 A1	2	2-0	1	前	教育実践に関する科目
			理科教育実践研究 A2	2	2-0	2	前	〃
			理科教育実践研究 B1	2	2-0	1	前	〃
			理科教育実践研究 B2	2	2-0	2	前	〃
課題研究 I	2	0-2	2	前	課 題 研 究			
課題研究 II	2	0-2	2	後	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	備 考
課程共通			学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教科教育専攻	芸術表現教育専修	音楽教育領域	音楽科教育特論A	2	2-0	1	前	教科教育専攻に関する科目
			音楽科教育特論演習A	2	0-2	1	後	〃
			音楽科教育特論B	2	2-0	1	前	〃
			音楽科教育特論演習B	2	0-2	1	後	〃
			音楽科教育研究法A	2	2-0	1	前	〃
			音楽科教育研究法演習A	2	0-2	1	後	〃
			音楽科教育研究法B	2	2-0	1	前	〃
			音楽科教育研究法演習B	2	0-2	1	後	〃
			声楽特論AⅠ	2	2-0	1・2	前	〃
			声楽特論演習AⅠ	2	0-2	1・2	後	〃
			声楽特論AⅡ	2	2-0	1・2	前	〃
			声楽特論演習AⅡ	2	0-2	1・2	後	〃
			声楽特論BⅠ	2	2-0	1・2	前	〃
			声楽特論演習BⅠ	2	0-2	1・2	後	〃
			声楽特論BⅡ	2	2-0	1・2	前	〃
			声楽特論演習BⅡ	2	0-2	1・2	後	〃
			声楽特別研究A	2	2-0	2	前・後	〃
			声楽特別研究B	2	2-0	2	前・後	〃
			器楽特論 AⅠ(鍵盤楽器)	2	2-0	1・2	前	〃
			器楽特論演習AⅠ(鍵盤楽器)	2	0-2	1・2	前	〃
			器楽特論 AⅡ(弦楽器)	2	2-0	1・2	前	〃
			器楽特論演習AⅡ(弦楽器)	2	0-2	1・2	後	〃
			器楽特別研究A	2	1-2	2	前	〃
			器楽特論 BⅠ(鍵盤楽器)	2	2-0	1・2	後	〃
			器楽特論演習BⅠ(鍵盤楽器)	2	0-2	1・2	後	〃
			器楽特論BⅡ(弦楽器)	2	2-0	1・2	前	〃
			器楽特論演習BⅡ(弦楽器)	2	0-2	1・2	後	〃
			器楽特別研究B	2	1-2	2	後	〃
			作曲特論A	2	2-0	1	前	〃
			作曲特論演習AⅠ	2	0-2	1・2	前	〃
作曲特論演習AⅡ	2	0-2	1・2	後	〃			
作曲特論B	2	2-0	1	前	〃			
作曲特論演習BⅠ	2	0-2	1・2	前	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
教 科 教 育 専 攻	芸 術 表 現 教 育 専 修	音 楽 教 育 領 域	作曲特論演習BⅡ	2	0-2	1・2	後	教科教育専攻に関する科目
			音楽学特論A	2	2-0	1・2	前	〃
			音楽学特論演習AⅠ	2	0-2	1・2	後	〃
			音楽学特論演習AⅡ	2	0-2	1・2	後	〃
			音楽学特論B	2	2-0	1・2	前	〃
			音楽学特論演習BⅠ	2	0-2	1・2	後	〃
			音楽学特論演習BⅡ	2	0-2	1・2	後	〃
			音楽科授業研究A	2	2-0	2	前	教育実践に関する科目
			音楽科教材開発A	2	2-0	2	後	〃
			音楽科授業研究B	2	2-0	2	前	〃
			音楽科教材開発B	2	2-0	2	後	〃
			課題研究Ⅰ	1	0-2	1	前	課 題 研 究
			課題研究Ⅱ	1	0-2	1	後	〃
			課題研究Ⅲ	1	0-2	2	前	〃
課題研究Ⅳ	1	0-2	2	後	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
課程 共通			学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教 科 教 育 専 攻	芸 術 表 現 教 育 専 修	美 術 教 育 領 域	幼小絵画特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教科教育専攻に関する科目
			幼小絵画特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小絵画特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小絵画特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			絵画特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			絵画特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			絵画特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			絵画特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小彫刻特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小彫刻特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小彫刻特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小彫刻特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			彫刻特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			彫刻特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			彫刻特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			彫刻特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			総合表現特論A	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小デザイン特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小デザイン特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小デザイン特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小デザイン特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			デザイン特論AⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			デザイン特論演習AⅠ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			デザイン特論AⅡ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
デザイン特論演習AⅡ	2	0-2	1・2	前又は後	〃			
デザイン特論BⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	〃			
デザイン特論演習BⅠ	2	0-2	1・2	前又は後	〃			
幼小陶芸特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
教 科 教 育 専 攻	芸 術 表 現 教 育 専 修	美 術 教 育 領 域	幼小陶芸特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	教科教育専攻に関する科目
			幼小陶芸特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小陶芸特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			陶芸特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			陶芸特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			陶芸特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			陶芸特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小織染特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小織染特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小織染特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小織染特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			織染特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			織染特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			織染特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			織染特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小美術理論・美術史特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小美術理論・美術史特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小美術理論・美術史特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小美術理論・美術史特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			美術理論・美術史特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			美術理論・美術史特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			美術理論・美術史特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			美術理論・美術史特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			総合表現特論B	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			総合表現特論C	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			総合表現特論演習B	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			総合表現特論演習C	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小美術教育特論	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小美術教育基礎論	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小美術教育特論演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小美術教育授業研究演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小美術教育教材開発演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
美術教育特論	2	2-0	1・2	前又は後	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
教 科 教 育 専 攻	芸 術 表 現 教 育 専 修	美 術 教 育 領 域	美術教育基礎論	2	2-0	1・2	前又は後	教科教育専攻に関する科目
			美術教育授業研究演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			美術教育特論演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			美術教育教材開発演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			工芸教育特論	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			工芸教育基礎論	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			工芸教育授業研究演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			工芸教育特論演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			工芸教育教材開発演習	2	0-2	1・2	前又は後	〃
			幼小造形芸術特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小造形芸術特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小造形芸術実技Ⅰ	2	0-4	1・2	前又は後	〃
			幼小造形芸術実技Ⅱ	2	0-4	1・2	前又は後	〃
			幼小造形教育特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小造形教育特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			造形芸術特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			造形芸術特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			造形芸術実技Ⅰ	2	0-4	1・2	前又は後	〃
			造形芸術実技Ⅱ	2	0-4	1・2	前又は後	〃
			造形教育特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			造形教育特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			幼小美術教育授業研究	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			幼小美術教育教材開発	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			美術教育授業研究	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			美術教育教材開発	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			工芸教育授業研究	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			工芸教育教材開発	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			課題研究Ⅰ	2	0-2	1	後	課 題 研 究
			課題研究Ⅱ	2	0-2	2	前	〃

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	備 考
課程 共 通			学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教 科 教 育 専 攻	生 活 科 学 教 育 専 修	技 術 教 育 領 域	電磁波工学特論	2	2-0	1・2	前	教科教育専攻に関する科目
			制御工学特論	2	0-2	1・2	前	〃
			電子応用工学特論	2	0-2	1・2	後	〃
			量子電子工学特論	2	2-0	1・2	後	〃
			デジタル通信工学特論演習	1	0-2	1・2	前	〃
			計算機工学特論	2	2-0	1・2	前	〃
			知能情報処理特論演習	1	0-2	1・2	前	〃
			人工知能工学特論演習	1	0-2	1・2	後	〃
			計測技術特論	2	2-0	1・2	後	〃
			計測技術特論演習	1	0-2	1・2	後	〃
			熱工学特論	2	2-0	1・2	前	〃
			熱工学特論演習	1	0-2	1・2	後	〃
			エネルギー変換工学特論	2	2-0	1・2	前	〃
			エネルギー変換工学特論演習	1	0-2	1・2	後	〃
			技術教育特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			技術教育特論演習Ⅰ	1	0-2	1・2	後	〃
			教材教具開発演習	2	0-2	1・2	前	〃
			技術教育特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			技術教育特論演習Ⅱ	1	0-2	1・2	後	〃
			安全工学特論	2	2-0	1・2	前	〃
			技術教育授業研究	2	2-0	1・2	前	教育実践に関する科目
			技術教育教材開発	2	2-0	1・2	後	〃
			課題研究Ⅰ	1	0-2	1	前・後	課 題 研 究
課題研究Ⅱ	1	0-2	1	前・後	〃			
課題研究Ⅲ	1	0-2	2	前・後	〃			
課題研究Ⅳ	1	0-2	2	前・後	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講年次	学期	備 考
課程 共通			学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
			学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
			協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
			協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教科 教育 専攻	生活 科学 教育 専修	家政 教育 領域	小学校調理学特論	2	2-0	1・2	前・後	教科教育専攻に関する科目
			小学校調理学特論演習	2	0-2	1・2	前・後	〃
			調理学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			調理学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前	〃
			調理学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			調理学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
			小学校被服学特論	2	2-0	1・2	前・後	〃
			小学校被服学特論演習	2	0-2	1・2	前・後	〃
			被服学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			被服学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前	〃
			被服学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			被服学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
			住まい学特論	2	2-0	1・2	前	〃
			住まい学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
			住居学特論	2	2-0	1・2	後	〃
			住居学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
			住生活学特論	2	2-0	1・2	前	〃
			住生活学特論演習	2	0-2	1・2	前	〃
			小学校生活経営学・経済学特論	2	2-0	1・2	前	〃
			小学校生活経営学・経済学特論演習	2	0-2	1・2	後	〃
			生活経営学・経済学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
			生活経営学・経済学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前	〃
			生活経営学・経済学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			生活経営学・経済学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
小学校家庭科教育特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃			
小学校家庭科教育特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前	〃			
家庭科教育特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃			

専攻	専修	領域	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
教科教育専攻	生活科学教育専修	家政教育領域	家庭科教育特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	前	教科教育専攻に関する科目
			小学校家庭科教育特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			小学校家庭科教育特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
			家庭科教育特論Ⅱ	2	2-0	1・2	後	〃
			家庭科教育特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
			小学校家政教育授業研究	2	2-0	1・2	前	教育実践に関する科目
			小学校家政教育教材開発	2	2-0	1・2	後	〃
			家政教育授業研究	2	2-0	1・2	後	〃
			家政教育教材開発	2	2-0	1・2	前	〃
			課題研究Ⅰ	1	0-3	1	前	課 題 研 究
			課題研究Ⅱ	1	0-3	1	後	〃
			課題研究Ⅲ	1	0-3	2	前	〃
			課題研究Ⅳ	1	0-3	2	後	〃

専攻	専修	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
課程 共通		学校教育の理論と実践Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育の基礎に関する科目
		学校教育の理論と実践Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
		協働実践研究Ⅰ	2	2-0	1・2	前又は後	教育実践に関する科目
		協働実践研究Ⅱ	2	2-0	1・2	前又は後	〃
教科 教育 専攻	保 健 体 育 専 修	保健体育科教育特論ⅠA	2	2-0	1・2	前	教科教育専攻に関する科目
		保健体育科教育特論演習ⅠA	2	0-2	1・2	後	〃
		保健体育科教育特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
		保健体育科教育特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	後	〃
		保健体育科教育特論ⅡA	2	2-0	1・2	前	〃
		保健体育科教育特論演習ⅡA	2	0-2	1・2	後	〃
		保健体育科教育特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前	〃
		保健体育科教育特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
		体育学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前	〃
		体育学特論演習ⅠA	2	0-2	1・2	後	〃
		体育学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
		体育学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	後	〃
		体育学特論ⅡA	2	2-0	1・2	前	〃
		体育学特論演習ⅡA	2	0-2	1・2	後	〃
		体育学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前	〃
		体育学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
		運動学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前	〃
		運動学特論演習ⅠA	2	0-2	1・2	後	〃
		運動学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃
		運動学特論演習Ⅰ	2	0-2	1・2	後	〃
		運動学特論ⅡA	2	2-0	1・2	前	〃
		運動学特論演習ⅡA	2	0-2	1・2	後	〃
		運動学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前	〃
		運動学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
		運動学特論Ⅲ	2	2-0	1・2	前	〃
		運動学特論演習Ⅲ	2	0-2	1・2	後	〃
		学校保健学特論ⅠA	2	2-0	1・2	前	〃
学校保健学特論演習ⅠA	2	0-2	1・2	後	〃		
学校保健学特論Ⅰ	2	2-0	1・2	前	〃		

専攻	専修	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学期	備 考
教 科 教 育 専 攻	保 健 体 育 専 修	学校保健学特論演習 I	2	0-2	1・2	後	教科教育専攻に関する科目
		学校保健学特論ⅡA	2	2-0	1・2	前	〃
		学校保健学特論演習ⅡA	2	0-2	1・2	後	〃
		学校保健学特論Ⅱ	2	2-0	1・2	前	〃
		学校保健学特論演習Ⅱ	2	0-2	1・2	後	〃
		保健体育科授業研究A	2	2-0	1	前	教育実践に関する科目
		保健体育科教材開発A	2	2-0	1	後	〃
		保健体育科授業研究	2	2-0	1	前	〃
		保健体育科教材開発	2	2-0	1	後	〃
		課題研究Ⅰ	2	0-2	1	通年	課 題 研 究
		課題研究Ⅱ	2	0-2	2	通年	〃

専攻	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	備 考
高 度 教 職 実 践 専 攻	教育課程編成の課題と実践	2	1-1	1	前	共通科目 1) 教育課程の編成・実施に 関する領域
	指導と評価の課題と実践	2	1-1	1	前	
	教授・学習の課題と実践	2	1-1	1	前	
	思考・判断・表現力育成の課題と実践	2	1-1	1	前	共通科目 2) 教科等の実践的な指導 方法に関する領域
	生活指導・生徒指導の実践と課題	2	1-1	1	前	共通科目 3) 生徒指導、教育相談に 関する領域
	学校不適合への実践と課題	2	1-1	1	前	
	学級経営の実践と課題	2	1-1	1	前	共通科目 4) 学級経営、学校経営に 関する領域
	学校改革の実践と課題	2	1-1	1	前	
	学校教育・教員のあり方の課題と実践	2	1-1	1	前	共通科目 5) 学校教育と教員の在り方 に関する領域
	沖縄の学校と社会	2	1-1	1	前	
	授業分析・リフレクションの理論と実践	2	1-1	1・2	後	選択科目 学習指導に関する科目群
	言語活動と協同学習	2	1-1	1・2	後	
	理数系授業づくりの理論と実践	2	1-1	1・2	後	
	授業づくりの理論と実践	2	1-1	1・2	後	
	学習指導のための教材・教具の開発と活用	2	1-1	1・2	後	
	活用力としての教科外活動	2	1-1	1・2	後	
	授業づくりと指導法の高度化	2	1-1	1・2	後	
	積極的生活指導・生徒指導	2	1-1	1・2	後	
	いじめ問題への対応と課題	2	1-1	1・2	後	
	こども支援のための地域・保護者との協力 関係づくり	2	1-1	1・2	後	
	特別な支援を必要とするこどもの理解と実 践	2	1-1	1・2	後	
	新時代こども支援活動	2	1-1	1・2	後	
	地域と学校の在り方	2	1-1	1・2	後	
	校内研究組織の実践と課題	2	1-1	1・2	後	選択科目 組織運営に関する科目群
	組織的意思決定マネジメント	2	1-1	1・2	後	
	教師の成長とメンタリング	2	1-1	1・2	後	
	学校安全管理	2	1-1	1・2	後	選択科目 学校経営に関する科目群
	学校マネジメント	2	1-1	1・2	後	
	学校と地域との連携の実践と課題	2	1-1	1・2	後	
	特別支援教育特論	2	1-1	1	前	選択科目 特別支援教育に関する科 目群
	特別支援教育システム論	2	1-1	1	前	
	特別支援教育コーディネーター論	2	1-1	1・2	後	
特別支援教育の教育課程・授業特論演習	2	1-1	1・2	後		
特別支援教育・地域支援の理論と実践	2	1-1	1・2	後		
障害児理解と教育実践・発達臨床支援	2	1-1	1・2	後		

専攻	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	備考
高度 教職 実践 専攻	肢体不自由児の理解と支援	2	1-1	1・2	後	選択科目 特別支援教育に関する科目群
	病弱児の理解と支援の探究	2	1-1	1・2	後	
	重複障害児の理解と支援	2	1-1	1・2	後	
	課題発見実習Ⅰ	2	10日	1	前	実習科目 実習科目群
	課題発見実習Ⅱ	4	20日	1	後	
	課題解決実習	4	20日	2	通年	
	インターン実習	2	10日	2	前	
	課題発見実習ⅠA（特別支援教育）	1	5日	1	前	実習科目 特別支援教育に関する実習科目群
	課題発見実習ⅠB（特別支援教育）	2	10日	1	前	
	課題発見実習Ⅱ（特別支援教育）	4	20日	1	後	
	課題解決実習（特別支援教育）	4	20日	2	通年	
	インターン実習（特別支援教育）	2	10日	2	前	
	課題研究Ⅰ	2	0-2	1	前	課題研究 課題研究科目群
	課題研究Ⅱ	2	0-2	1	後	
	課題研究Ⅲ	2	0-2	2	前	
	課題研究Ⅳ	2	0-2	2	後	
	課題研究Ⅰ（特別支援教育）	2	0-2	1	前	課題研究 特別支援教育に関する課題研究科目群
	課題研究Ⅱ（特別支援教育）	2	0-2	1	後	
	課題研究Ⅲ（特別支援教育）	2	0-2	2	前	
	課題研究Ⅳ（特別支援教育）	2	0-2	2	後	

履修方法

○修士課程の履修基準(履修最低単位数)

修士課程の修了要件は以下の履修基準表のとおりです。

履修基準表

専攻	科目	① 教育の基礎に 関する科目	② 教育実践に 関する科目	③ 各専攻に関す る専門科目	④ 課題研究	⑤ 自由選択科目	計
学校教育専攻 (教育学・心理学コース)		4	6	12	4	4	30
学校教育専攻 (特別支援教育コース)		4	6	16	4	0	30
教科教育専攻		4	6	12	4	4	30

備考)各科目群のなかには、類似の科目名であっても、小学校(一部幼稚園を含む)免許のみに対応する科目と中学校(一部高等学校を含む)免許のみに対応する科目に細分化している科目があります。

- 専修免許の取得を希望する学生は、主として小学校教諭専修免許状(一部幼稚園を含む)を取得する選修(以下小学校選修)か、主として中学校教諭専修免許状(一部高等学校を含む)を取得する選修(以下中・高校選修)のいずれかを入学段階で選択して履修します。但し、人文社会教育専修英語教育領域、生活科学教育専修技術教育領域は特定校種・教科の専修免許しか取得できないので選択することはできません。また、専修免許の取得を希望しない場合は、選修を指定しなくてよいです。
- 入学後の選修の変更は、随時可能です。但し、変更した新しい選修の履修基準に従って単位を取得しなければなりません。
- 専攻ごとの履修方法は、次のとおりとします。その際、選修の区別がある場合は、小学校選修は小学校教諭の課程認定を受けている科目群から履修し、中・高校選修は中学校・高等学校教諭の課程認定を受けている科目群から履修することを意味します。

1) 学校教育専攻(教育学・心理学コース)

科目区分	小学校選修	中・高校選修
① 教育の基礎に関する科目	「学校教育の理論と実践Ⅰ」および「同Ⅱ」を履修する。	
② 教育実践に関する科目	「協働実践研究Ⅰ」2単位は必修。	
	「教育実践の研究Ⅰ(小)」2単位、「教育実践の研究Ⅱ(小)」2単位、計4単位を履修する。但し、教育学コースについては、「教育実践の研究Ⅰ(小)」以外の2単位は、教科教育専攻提供の教育実践に関する科目を履修してもよい。	「教育実践の研究Ⅰ」2単位、「教育実践の研究Ⅱ」2単位、計4単位を履修する。但し、教育学コースについては、「教育実践の研究Ⅰ」以外の2単位は、教科教育専攻提供の教育実践に関する科目を履修してもよい。
③ 学校教育専攻に関する専門科目	教育学・心理学について、各コースの提供する特論を6単位以上、演習を6単位以上履修する。	教育学・心理学について、各コースの提供する特論を6単位以上、演習を6単位以上履修する。
④ 課題研究	指導教員のもとで、「課題研究Ⅰ」、「課題研究Ⅱ」の4単位を履修する。	

2) 学校教育専攻(特別支援教育コース)

① 教育の基礎に関する科目	「学校教育の理論と実践Ⅰ」および「同Ⅱ」を履修する。
② 教育実践に関する科目	「協働実践研究Ⅰ」2単位は必修。「障害児教育の実践研究Ⅰ」～「障害児教育の実践研究Ⅴ」から、4単位を履修する。
③ 特別支援教育専攻に関する科目	「特別支援教育特論A」、「特別支援教育特論B」、「知的障害教育学特論」、「知的障害教育学特論演習」、「障害児心理学特論」、「障害児心理学特論演習」、「障害児生理・病理特論」、「障害児生理・病理特論演習」の中から6単位を含めて16単位履修する。
④ 課題研究	「課題研究Ⅰ」2単位、「課題研究Ⅱ」2単位を履修する。

3) 教科教育専攻

科目区分		小学校選修	中・高校選修
① 教育の基礎に関する科目		「学校教育の理論と実践Ⅰ」および「同Ⅱ」を履修する。	
② 教育実践に関する科目	専攻共通	「協働実践研究Ⅰ」2単位は必修。	
	国語教育	「初等国語科教材開発」2単位、「初等国語科授業研究」2単位を履修する。	「国語科教材開発」2単位、「国語科授業研究」2単位を履修する。
	社会科教育	「社会科授業研究Ⅰ」2単位、「社会科教材開発Ⅰ」2単位を履修する。	「社会科授業研究Ⅱ又はⅢ」2単位、「社会科教材開発Ⅱ又はⅢ」2単位を履修する。
	英語教育		「英語教育授業研究」2単位、「英語教育教材開発」2単位を履修する。
	数学教育	「数学教育授業研究A」2単位、「数学教育教材開発A」2単位を履修する。	「数学教育授業研究B」2単位、「数学教育教材開発B」2単位を履修する。
	理科教育	「理科教育実践研究A1」2単位、「理科教育実践研究A2」2単位を履修する。	「理科教育実践研究B1」2単位、「理科教育実践研究B2」2単位を履修する。
	音楽教育	「音楽科授業研究A」2単位、「音楽科教材開発A」2単位を履修する。	「音楽科授業研究B」2単位、「音楽科教材開発B」2単位を履修する。
	美術教育	「幼小美術教育授業研究」2単位、「幼小美術教育教材開発」2単位を履修する。	「美術教育授業研究」2単位、「美術教育教材開発」2単位を履修する。
	技術教育		「技術教育授業研究」2単位、「技術教育教材開発」2単位を履修する。
	家政教育	「小学校家政教育授業研究」2単位、「小学校家政教育教材開発」2単位を履修する。	「家政教育授業研究」2単位、「家政教育教材開発」2単位を履修する。
	保健体育	「保健体育科授業研究A」2単位、「保健体育科教材開発A」2単位を履修する。	「保健体育科授業研究」2単位、「保健体育科教材開発」2単位を履修する。
③ 教科教育専攻に関する専門科目	国語教育	「初等国語教育特別研究ⅠA・ⅠB」各2単位を含めて12単位以上を履修する。	「国語教育特別研究ⅠA・ⅠB」各2単位を含めて12単位以上を履修する。
	社会科教育	12単位以上を選択履修する。	12単位以上を選択履修する。
	英語教育		「英語科教育研究Ⅰ」2単位、「英語科教育研究Ⅱ」2単位の計4単位を必修とし、英語学及び英米文学の分野より4単位以上を選択履修する。

③ 教科教育専攻に関する専門科目	数学教育	分野共通専門科目4単位を含めて12単位以上を履修すること。	分野共通専門科目4単位を含めて12単位以上を履修すること。
	理科教育	12単位以上を選択履修する。	12単位以上を選択履修する。
	音楽教育	「音楽科教育特論A」2単位、「音楽科教育特論演習A」2単位の計4単位を必修とし、そのほかに、各分野より8単位以上を選択履修する。	「音楽科教育特論B」2単位、「音楽科教育特論演習B」2単位の計4単位を必修とし、そのほかに、各分野より8単位以上を選択履修する。
	美術教育	12単位以上を選択履修する。	12単位以上を選択履修する。
	技術教育		「技術科教育特論Ⅰ、Ⅱ」(4単位)を含めて12単位以上を履修する。
	家政教育	「小学校家庭科教育特論Ⅰ」2単位、「小学校家庭科教育特論Ⅱ」2単位の計4単位を必修とし、そのほかに各分野より8単位以上を選択履修する。	「家庭科教育特論Ⅰ」2単位、「家庭科教育特論Ⅱ」2単位の計4単位を必修とし、そのほかに各分野より8単位以上を選択履修する。
	保健体育専修	「保健体育科教育特論ⅠA、ⅡA」4単位を必修とし、その他の分野より8単位以上を選択履修する。	「保健体育科教育特論Ⅰ、Ⅱ」4単位を必修とし、その他の分野より8単位以上を選択履修する。
④ 課題研究	国語教育	「課題研究Ⅰ」2単位、「課題研究Ⅱ」2単位を履修する。	
	社会科教育	「課題研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」各1単位、合計4単位を履修する。	
	英語教育		「課題研究Ⅰ」2単位、「課題研究Ⅱ」2単位を履修する。
	数学教育	「課題研究Ⅰ」2単位、「課題研究Ⅱ」2単位を履修する。	
	理科教育	「課題研究Ⅰ」2単位、「課題研究Ⅱ」2単位を履修する。	
	音楽教育	「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」「課題研究Ⅲ」「課題研究Ⅳ」各1単位、合計4単位を履修する。	
	美術教育	「課題研究Ⅰ」2単位、「課題研究Ⅱ」2単位を履修する。	
	技術教育		「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」「課題研究Ⅲ」「課題研究Ⅳ」各1単位、合計4単位を履修する。
	家政教育	「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」「課題研究Ⅲ」「課題研究Ⅳ」各1単位、合計4単位を履修する。	
	保健体育専修	「課題研究Ⅰ」2単位、「課題研究Ⅱ」2単位を履修する。	

注:別校種・教科の専修免許を希望する場合は、当該校種・教科の一種免許を取得しており、かつ当該校種・教科用に開設されている授業科目から、専修免許状取得に必要な教科または教職に関する科目24単位を満たすよう修得すること。

4. 教員免許（90ページ「別表」参照）

1) 取得できる免許状の種類

本研究科において取得できる専修免許状は、別表教員免許状のとおりです。ただし、専修免許状の所要資格を得ようとする場合は、取得しようとする専修免許状（中学校教諭及び高等学校教諭の専修免許状については、その免許教科）の一種免許状を有することが必要です。

2) 免許状取得のための必要単位数

- ① 幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状、高等学校教諭専修免許状取得のためには、各専修の教科又は教職に関する科目から24単位以上修得しなければなりません。
- ② 教科教育専攻において、別校種・教科の専修免許を希望する場合は、当該校種・教科の一種免許を取得しており、かつ当該校種・教科用に開設されている授業科目から、専修免許状取得に必要な教科または教職に関する科目24単位を満たすよう修得すること。

5. 修了要件

課程の修了のためには次の要件を満たすことが必要です。

- 1) 標準修業年限:標準修業年限は2年とします。なお、学生は4年を超えて在学することはできません。
- 2) 修得単位数:学生は前述の履修基準に従って、修了要件単位を修得しなければなりません。
- 3) 学位論文等:修士課程の場合は、学位を請求するための論文または特定課題研究報告書を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければなりません。

6. 学 位

学校教育専攻及び教科教育専攻の課程修了者には、修士(教育学)の学位を授与します。

別表(教員免許状の種類)

専攻	専修	取得できる専修免許状	
		種類	教科(又は領域)
学校教育	学校教育	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
		高等学校教諭専修免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 保健体育, 家庭, 工業, 英語, 情報
教科教育	国語教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語 国語
	社会科教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	社会 地理歴史, 公民
	数学教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	数学 数学
	理科教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	理科 理科
	音楽教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	音楽 音楽
	美術教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	美術 美術, 工芸
	保健体育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	保健体育 保健体育
	技術教育	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	技術 工業
	家政教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	家庭 家庭
	英語教育	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	英語 英語

授業科目一覧

(1) 修士課程 共通科目

授 業 科 目		単 位	概 要	教職課程
教育の基礎に関する科目	学校教育の理論と実践 I	2	(1) 学校教育と教員のあり方, (2) 教育課程・教育方法, (3) 道徳教育に関して, 基礎理論を取り上げるとともに実践的・現実的な観点から考究する。	幼小中高
	学校教育の理論と実践 II	2	(1) 子ども理解と学級経営, (2) 生徒指導・教育相談, (3) 特別支援教育に関して, 基礎理論を理解し, 実践的・現実的な観点から, 専門領域の垣根を越えて討議することで, 学際的な学びを行う。	幼小中高
教育実践に関する科目	協働実践研究 I	2	多様な教員による協働を意識しつつ, 受講者がコースや分野の垣根を越えて研究授業や児童生徒支援などの教育活動を構想・企画・実施・事後省察することで, 理論と実践を往還させた学びを実現する。	幼小中高
	協働実践研究 II	2	I の後継科目として, 受講者が今日の沖縄の教育に即した具体的な課題を設定し, 再び授業内外の活動に取り組み, 同僚としての協働性を土台としながら理論と実践を往還させた高度な学びを実現する。	幼小中高

(2) 学校教育専攻 (教育学・心理学コース)

コース	分野	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程	
教育学コース	教育学 (教育史)	教育史特論	2	現代教育の思想やその背景を歴史的に解明する。	幼小中高	
		教育史特論演習	2	近代の教育思想史に関する基本的文献資料を選定し, 検討する。	幼小中高	
		教育哲学特論	2	近代の教育と教育学の理論的諸問題について批判的に検討する。	幼小中高	
		教育哲学特論演習	2	教育哲学・教育思想に関する重要文献を講読し, それをもとに今日の教育課題について批判的に検討する。	幼小中高	
	学 校	教育行政学特論	2	教育と教育行政の基本原理, その歴史的考察, 国際的動向などについて取り上げ, 教育と教育行政の理論的・実践的課題を解明する。	幼小中高	
		教育行政学特論演習	2	教育行政, 教育政策, 教育法などに関する文献講読を通して, 教育と教育行政の重要問題を考察する。	幼小中高	
		学校経営学特論	2	学校経営に関する基本原理, その歴史的考察, 国際的動向などについて取り上げ, 学校経営の理論的課題, 実践的課題を解明する。	幼小中高	
		学校経営学特論演習	2	教育行政, 教育法, 学校経営などに関する文献講読を通して, 学校経営についての重要問題を検討する。	幼小中高	
	経 営					

コース	分野	授 業 科 目	単位	概 要	教職課程	
教 育 学 コ ー ス	図 書 館 情 報 学	学校図書館メディア特論	2	様々な情報メディアの特性や、それらに蓄積された情報を保存し利用するシステムとしての図書館をとり上げ、学校教育における視点から考察する。	幼小中高	
		学校図書館メディア特論演習	2	情報メディアや図書館情報システムに関する文献の講読とともに、情報社会の諸問題や公共図書館及び学校図書館の理論的・実践的課題について検討する。	幼小中高	
	教 育 社 会 学	教育社会学特論	2	教育社会学に関する理論を検討する。	幼小中高	
		教育社会学特論演習	2	教育社会学に関する理論を検討する。	幼小中高	
	教 育 内 容 ・ 方 法 論	教育方法学特論Ⅰ	2	カリキュラム論、資質・能力論、教育評価論など教育方法学に関する諸問題を検討する。	幼小中高	
		教育方法学特論演習Ⅰ	2	教育方法学の最新動向を踏まえ、文献研究を中心に比較検討する。	幼小中高	
		教育方法学特論Ⅱ	2	教育課程、学力、学習指導など教育方法学に関する諸問題について検討する。	幼小中高	
		教育方法学特論演習Ⅱ	2	小学校に関わる教育方法学の最近の研究動向を中心に、文献を読みながら理解を深める。	幼小中高	
		総合学習特論	2	総合学習の目標・内容・方法について、理論と実践を交えて検討する。	小中高	
		総合学習特論演習	2	総合学習の理論と具体的な実践例を中心に比較検討する。	小中高	
	道 徳 教 育	道徳教育特論	2	道徳教育思想を中心に道徳教育理論について検討する。	小中	
		道徳教育特論演習	2	道徳教育に関する文献を講読し、道徳教育の理論的および実践的なあり方について検討する。	小中	
	幼 児 教 育	幼児教育特論	2	幼児教育に関する専門的な理解を深めるとともに、日本の幼児教育の課題について考察する。	幼	
		幼児教育特論演習	2	幼児教育の実践・保育内容・制度に関する研究動向を考察する。	幼	
	心 理 学 コ ー ス	教 育 ・ 発 達 心 理 学 分 野	教育心理学特論	2	教育心理学に関する理論と応用を検討する。	幼小中高
			教育心理学特論演習	2	教育心理学に関する文献を講読する。	幼小中高
キャリア発達特論			2	キャリア発達とキャリア教育に関する心理学的見地からの、理論・研究について検討する。	小中高	
キャリア発達特論演習			2	キャリア発達とキャリア教育に関する心理学的見地からの、理論・研究について演習（実習）を行う。	小中高	

コース	分野	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
心 理 学 コ ー ス	教 育 ・ 発 達 心 理 学 分 野	学習心理学特論	2	学習心理学における理論と応用について検討する。	幼小中高
		学習心理学特論演習	2	学習心理学に関する内外の文献を講読する。	幼小中高
		学校臨床心理学特論	2	学校臨床における諸問題について、心理学的に論ずる。	幼小中高
		学校臨床心理学特論演習	2	学校臨床心理学に関する内外の文献を講読する。	幼小中高
		言語心理学特論	2	言語の学習・発達の基礎について論ずる。	幼小中高
		児童心理学特論	2	子どもの社会性の発達について社会的認知理論の立場から論ずる。	幼小中高
		児童心理学特論演習	2	子どもの社会的行動の発達に関する内外の文献を講読する。	幼小中高
コ ー ス 共 通	教 育 実 践 に 関 す る 科 目	教育実践の研究 I	2	教育学の視点から中・高校の教育実践について研究する。	中高
		教育実践の研究 I (小)	2	教育学の視点から小学校の教育実践について研究する。	幼小
		教育実践の研究 II	2	心理学の視点から中・高校教育実践について研究する。	中高
		教育実践の研究 II (小)	2	心理学の視点から幼小教育実践について研究する。	幼小
	課 題 研 究	課題研究 I	2	特定の研究テーマを設定し、指導教員の下で研究を深める。	幼小中高
		課題研究 II	2	特定の研究テーマを設定し、指導教員の下で研究を深める。	幼小中高

(3) 学校教育専攻（特別支援教育コース）

分野	区分	授 業 科 目	単位	概 要
分野 共通 （特別支援教育コースに関する専門科目）	専 門 基 礎 領 域	特別支援教育特論A	2	特別支援教育の背景、基本的理念及びその特徴等、特別支援教育に関する基礎的・原理的事項について論じる。
		特別支援教育特論B	2	特別支援教育の基礎的知識を踏まえ、教育現場における特別支援教育の実践に関連する取り組みについて考察する。
		知的障害教育学特論	2	知的障害者教育を中心に日本及び沖縄県の歴史的展開や実態の検討を通して、今後の「特別支援教育」の課題を論究する。
		知的障害教育学特論演習	2	障害者教育の歴史や実態に関する文献の講読を行い、それらの論点及び研究方法について検討する。
		障害児心理学特論	2	障害児の行動全般について心理学的視点から考察し、障害の理解と支援の方法について考究する。
		障害児心理学特論演習	2	障害児の行動全般について発達の視点から考察し、発達過程に即した支援の方法について考究する。
		障害児生理・病理特論	2	障害児の生理及び病理的特性について文献などを参考にしながら具体的に論じる。
		障害児生理・病理特論演習	2	障害児の生理及び病理的特性を考慮しながら、教育実践の諸問題について討論する。
	専 門 実 践 領 域	障害児療育特論	2	障害児の乳幼児期における発達の過程及び特性を把握し、家庭や療育機関における支援の方法について考究する。
		軽度発達障害児支援特論	2	軽度発達障害の発達の特徴をおさえ、本質的な問題と成長過程に生じる2次的な問題における支援の在り方について考察する。
		個別移行支援計画特論	2	個別の教育支援計画及びその一部である個別移行支援計画について検討し、障害児への移行支援の在り方について考究する。
		職業リハビリテーション特論	2	障害児・者の職業リハビリテーションに関する文献を講読し、就業と社会参加のための方法論を考究する。
		地域支援ネットワーク特論	2	ケアマネジメントに関する文献を講読し、学校と地域の関係機関との連携を前提としたチームアプローチによる障害児・障害者支援の在り方について考究する。
		特別支援組織教育学	2	特別支援教育における関係諸機関との連携の在り方や方法論について具体的に論じる。
		障害児臨床心理学特論	2	関係性の形成と認知発達を視野に入れた療育や適応支援、自我形成過程から捉えた内的世界の臨床心理学的支援について考察する。

分野	区分	授 業 科 目	単位	概 要
分 野 外	教育実践に関する科目	障害児教育の実践研究Ⅰ	2	障害児の教育に関わる教育課程及び教育方法等について、実践的検討を行う。
		障害児教育の実践研究Ⅱ	2	発達障害児の心理学的理解及び発達支援に関する文献・実践研究。
		障害児教育の実践研究Ⅲ	2	障害児の病理及び生理学的特性に基づいた実践的研究。
		障害児教育の実践研究Ⅳ	2	障害児の進路学習の授業方法や進路指導の実践の在り方について考究し、方法論を討議する。
		障害児教育の実践研究Ⅴ	2	障害児の支援を行う上での環境や資源、及び対象や状態像等を考慮した支援方針及び心理臨床の実践について考究する。
	課題研究	課題研究ⅠA(知的障害教育)	2	特定の研究テーマを設定し、指導教員の下で研究を深める。
		課題研究ⅠB(知的障害教育)	2	特定の研究テーマを設定し、指導教員の下で研究を深める。
		課題研究ⅠC(重複・LD領域)	2	特定の研究テーマを設定し、指導教員の下で研究を深める。
		課題研究ⅠD(知的障害教育)	2	特定の研究テーマを設定し、指導教員の下で研究を深める。
		課題研究ⅠE(重複・LD領域)	2	特定の研究テーマを設定し、指導教員の下で研究を深める。
		課題研究ⅡA(知的障害教育)	2	発達障害児の心理学的理解及び発達支援に関する文献・実践研究。
		課題研究ⅡB(知的障害教育)	2	障害児の支援を行う上での環境や資源、及び対象や状態像等を考慮した支援方針及び心理臨床の実践について考究する。
		課題研究ⅡC(重複・LD領域)	2	障害児の病理及び生理学的特性に基づいた実践的研究。
		課題研究ⅡD(知的障害教育)	2	障害児の進路学習の授業方法や進路指導の実践の在り方について考究し、方法論を討議する。
課題研究ⅡE(重複・LD領域)	2	関係性の形成と認知発達を視野に入れた療育や適応支援、自我形成過程から捉えた内的世界の臨床心理学的支援について考察する。		

(4) 教科教育専攻

1) 人文社会教育専修

i) 国語教育領域

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
国語学	日本語学特論ⅠA	2	現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する理論的・歴史的研究についての講義。	中高
	日本語学特論ⅠB	2		中高
	日本語学特論演習ⅠA	2	現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する演習。	中高
	日本語学特論ⅡA	2	日本語の音韻・文法・語彙に関する日本語史的研究についての講義。	中高
	日本語学特論ⅡB	2		中高
	日本語学特論演習ⅡA	2	日本語の音韻・文法・語彙に関する日本語史的演習。	中高
	日本語学特論ⅠC	2	現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する理論的・歴史的研究についての講義。	中高
	日本語学特論ⅠD	2		中高
	日本語学特論演習ⅠB	2	現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する演習。	中高
	日本語学特論ⅡC	2	日本語の音韻・文法・語彙に関する日本語史的研究についての講義。	中高
	日本語学特論ⅡD	2		中高
	日本語学特論演習ⅡB	2	現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する演習。	中高
	言語事項特論ⅠA	2	幼少期の言語のありように目配りしつつ、現代語および方言の音韻・文法・語彙について専門的見地から講義する。	小
	言語事項特論ⅠB	2		小
	言語事項特論演習ⅠA	2	幼少期の言語のありように目配りしつつ、現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する調査・報告を行う。	小
	言語事項特論ⅡA	2	幼少期の言語のありように目配りしつつ、現代語および方言の音韻・文法・語彙について専門的見地から講義する。	小
	言語事項特論ⅡB	2		小
	言語事項特論演習ⅡA	2	幼少期の言語のありように目配りしつつ、現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する調査・報告を行う。	小
	言語事項特論ⅠC	2	幼少期の言語のありように目配りしつつ、現代語および方言の音韻・文法・語彙について専門的見地から講義する。	小
	言語事項特論ⅠD	2		小
言語事項特論演習ⅠB	2	幼少期の言語のありように目配りしつつ、現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する調査・報告を行う。	小	
言語事項特論ⅡC	2	幼少期の言語のありように目配りしつつ、現代語および方言の音韻・文法・語彙について専門的見地から講義する。	小	
言語事項特論ⅡD	2		小	

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
国語学	言語事項特論演習ⅡB	2	幼少期の言語のありように目配りしつつ、現代語および方言の音韻・文法・語彙に関する調査・報告を行う。	小
	言語文化特論ⅠA	2	口承文芸を含むさまざまな言語文化に関して、比較研究の視点をまじえた専門的見地から講義する。	中高
	言語文化特論ⅠB	2		中高
	言語文化特論ⅡA	2		中高
	言語文化特論ⅡB	2		中高
	言語文化特論演習Ⅰ	2		口承文芸及び民俗文化について、その資料収集と分析を通して文化理解の方法を学ぶ。
	言語文化特論演習Ⅱ	2	中高	
	地域言語文化特論ⅠA	2	口承文芸を含むさまざまな地域言語文化に関して、比較研究の視点をまじえた専門的見地から講義する。	小
	地域言語文化特論ⅠB	2		小
	地域言語文化特論ⅡA	2		小
	地域言語文化特論ⅡB	2		小
	地域言語文化特論演習Ⅰ	2	地域言語文化に関する資料の収集と分析を通して文化理解の方法を学ぶ。	小
	地域言語文化特論演習Ⅱ	2		小
	国文学	日本古典文学特論ⅠA	2	日本古典文学に関する重要な研究課題について専門的見地から講義する。
日本古典文学特論ⅠB		2	中高	
日本古典文学特論ⅡA		2	中高	
日本古典文学特論ⅡB		2	中高	
日本古典文学特論演習Ⅰ		2	日本古典文学に関する基本文献及び関連資料の講読・分析を通して作品の読解・批評能力を養成する。	中高
日本古典文学特論演習Ⅱ		2		中高
伝統的な言語文化特論ⅠA		2	伝統的な言語文化に関する重要な研究課題について専門的見地から講義する。	小
伝統的な言語文化特論ⅠB		2		小
伝統的な言語文化特論ⅡA		2		小
伝統的な言語文化特論ⅡB		2		小
伝統的な言語文化特論演習Ⅰ		2	伝統的な言語文化に関する基本文献及び関連資料の講読・分析を通して作品の読解・批評能力を養成する。	小
伝統的な言語文化特論演習Ⅱ		2		小
日本近代文学特論ⅠA		2	日本近代文学に関する重要な研究課題について専門的見地から講義する。	中高
日本近代文学特論ⅠB		2		中高
日本近代文学特論ⅡA		2		中高
日本近代文学特論ⅡB		2		中高
日本近代文学特論演習Ⅰ		2	日本近代文学の代表的作品を取り上げ、その講読・分析を通して読解・批評能力を養成する。	中高
日本近代文学特論演習Ⅱ		2		中高

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
国 文 学	現代文学特論ⅠA	2	現代の文学に関する重要な研究課題について専門的見地から講義する。	小
	現代文学特論ⅠB	2		小
	現代文学特論ⅡA	2		小
	現代文学特論ⅡB	2		小
	現代文学特論演習Ⅰ	2	現代を代表する文学作品を取り上げ、その講読・分析を通して読解・批評能力を養成する。	小
	現代文学特論演習Ⅱ	2		小
漢 文 学	漢文学特論ⅠA	2	中国文学及び日本漢文学に関する重要問題について、専門的見地から講義する。	中高
	漢文学特論ⅠB	2		中高
	漢文学特論演習Ⅰ	2	中国文学及び日本漢文学に関する基本文献及び関連資料の講読・分析を通して作品の読解・批評能力を養成する。	中高
	漢文学特論ⅡA	2	中国哲学及び日本漢学に関する重要問題について、専門的見地から講義する。	中高
	漢文学特論ⅡB	2		中高
	漢文学特論演習Ⅱ	2	中国哲学及び日本漢学に関する基本文献及び関連資料の講読・分析を通して作品の読解・批評能力を養成する。	中高
	漢字文化特論ⅠA	2	漢字文化に関する重要問題について、専門的見地から講義する。	小
	漢字文化特論ⅠB	2		小
	漢字文化特論演習Ⅰ	2	漢字文化に関する基本文献及び関連資料の講読・分析を通して作品の読解・批評能力を養成する。	小
	漢字文化特論ⅡA	2	漢字教育に関する重要問題について、専門的見地から講義する。	小
	漢字文化特論ⅡB	2		小
	漢字文化特論演習Ⅱ	2	漢字教育に関する基本文献及び関連資料の講読・分析を通して作品の読解・批評能力を養成する。	小
	国 語 科 教 育	国語科教育特論ⅠA	2	国語教育について、①「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域における教材開発と授業論、②「教育と表現」をめぐる諸問題、③近代以降の綴り方・作文教育史、といった見地から講義する。
国語科教育特論ⅠB		2	中高	
国語科教育特論演習Ⅰ		2	国語教育における「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の、学習者・教材・授業をめぐる諸問題について探究する。	中高
国語科教育特論ⅡA		2	国語教育について、①「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域における教材開発と授業論、②文学教育の諸理論についての歴史的・原理的考察、といった見地から講義する。	中高
国語科教育特論ⅡB		2		中高
国語科教育特論演習Ⅱ		2	国語教育における「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の、学習者・教材・授業をめぐる諸問題について探究する。	中高
初等国語科教育特論ⅠA		2	初等段階の国語教育について、①「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域における教材開発と授業論、②「教育と表現」をめぐる諸問題、③近代以降の綴り方・作文教育史、といった見地から講義する。	小
初等国語科教育特論ⅠB		2		小

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
国語科教育	初等国語科教育特論演習Ⅰ	2	初等段階の国語教育における「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の、学習者・教材・授業をめぐる諸問題について探究する。	小	
	初等国語科教育特論ⅡA	2	初等段階の国語教育について、①「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域における教材開発と授業論、②文学教育の諸理論についての歴史的・原理的考察、といった見地から講義する。	小	
	初等国語科教育特論ⅡB	2		小	
	初等国語科教育特論演習Ⅱ	2	初等段階の国語教育における「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の、学習者・教材・授業をめぐる諸問題について探究する。	小	
共通	国語教育特別研究ⅠA	2	国語教育の指導諸分野を言語文化の観点から総合的に研究するとともに、そこで選ばれた教材に即し、授業の計画、形態、方法等について理論的実践的研究を行う。	中高	
	国語教育特別研究ⅠB	2		中高	
	初等国語教育特別研究ⅠA	2	初等段階の国語教育の指導諸分野を言語文化の観点から総合的に研究するとともに、そこで選ばれた教材に即し、授業の計画、形態、方法等について理論的実践的研究を行う。	小	
	初等国語教育特別研究ⅠB	2		小	
分野外	教育実践に関する科目	国語科教材開発	2	「国語学力」をめぐる諸問題、今日の子どもたちの言語文化と発達をめぐる諸問題を踏まえ、教材開発の理論と実践について研究する。	中高
		初等国語科教材開発	2	「国語学力」をめぐる諸問題、今日の子どもたちの言語文化と発達をめぐる諸問題を踏まえ、教材開発の理論と実践について研究する。	小
		国語科授業研究	2	学習内容の追究、学習者の学習意識や意欲の把握など、授業分析論を基盤として、教授法を検討する。	中高
		初等国語科授業研究	2	学習内容の追究、学習者の学習意識や意欲の把握など、授業分析論を基盤として、初等国語の教授法を検討する。	小
	課題研究	課題研究Ⅰ	2	専修内の諸特定課題に対し、文献研究・フィールドワーク等を通して修士論文の作成指導を行う。	/
		課題研究Ⅱ	2		

ii) 社会科教育領域

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
歴	歴史学特論 I A (日本史)	2	日本前近代史上の重要な諸問題を地域史を中心に考察を深める。特に琉球・沖縄という地域の政治・外交・社会等に焦点をあてることによって日本史・琉球史の特質を考察する。	小	
	歴史学特論 I B (日本史)	2		中高 (地歴)	
史	歴史学特論演習 I A (日本史)	2	日本および琉球の前近代史 (主に中世・近世) に関する重要史料を授業実践に活用し得るようにする。	小	
	歴史学特論演習 I B (日本史)	2		中高 (地歴)	
	歴史学特論演習 I C (琉球史)	2		小	
	歴史学特論演習 I D (琉球史)	2		中高 (地歴)	
	歴史学特論 II A (東アジア史)	2		唐宋時代以降の中国の社会と経済について、家族、農村市場、小都市、専制国家の地方統治などの観点から検討し、世界史における中国文明の位置を理解する。	小
	歴史学特論 II B (東アジア史)	2			中高 (地歴)
学	歴史学特論演習 II A (東アジア史)	2	中国前近代に生成した史籍の読解と諸論点の調査討議を通じて、外国史の研究に必要な技法と方法論を学び、教員にふさわしい自立的な実践力を構築する。	小	
	歴史学特論演習 II B (東アジア史)	2		中高 (地歴)	
	歴史学特論演習 II C (東アジア史)	2		小	
	歴史学特論演習 II D (東アジア史)	2		中高 (地歴)	
地	人文地理学特論 I	2	近世～現代の環太平洋地域における地域変容について、人口移動や商品流通に注目し検討する。	小	
	人文地理学特論 II	2		中高 (地歴)	
	人文地理学特論演習 A	2	受講生の論文作成に役立つ参考文献を選び、研究目的、資料分析、調査方法、論文構成、論文展開、結論の導き方について考察し、論文作成の姿勢と能力を養う。	小	
	人文地理学特論演習 B	2		中高 (地歴)	
	人文地理学特論演習 C	2		小	
	人文地理学特論演習 D	2		中高 (地歴)	
	理	人文地理学野外調査 A	2	特定地域を選定し、野外調査と資料収集を通じて実践的な地域調査法を習得する。さらに野外において収集された情報や資料を論文作成に向けて分析・総合する能力を培う。	小
		人文地理学野外調査 B	2		中高 (地歴)
		人文地理学野外調査 C	2		小
		人文地理学野外調査 D	2		中高 (地歴)
学	自然地理学特論 I	2	自然地理学の諸分野のうち、近年とりわけ注目されている地球環境科学に関連する分野について理解を深める。	小	
	自然地理学特論 II	2		中高 (地歴)	
	自然地理学特論演習 A	2	自然地理学の最新の動向を把握・理解するため国際ジャーナルに掲載されている論文をもとに討議する。	小	
	自然地理学特論演習 B	2		中高 (地歴)	
	自然地理学特論演習 C	2		小	
	自然地理学特論演習 D	2		中高 (地歴)	

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
地理学	自然地理学野外調査A	2	研究論文を作成するために必要になる，自然地理学の専門的な野外調査（観察・観測）技術を習得する。	小
	自然地理学野外調査B	2		中高（地歴）
	自然地理学野外調査C	2		小
	自然地理学野外調査D	2		中高（地歴）
政治学	政治学特論 I A	2	議会の立法機能の計画化並びに行政の肥大化及び自律化に関連する研究を吟味することによって，現代国家の政治行政的特質を把握し，その民主化，合理化への改革の根拠となっている議論を検討する。	小
	政治学特論 I B	2		中高（公民）
	政治学特論演習 I A	2		小
	政治学特論演習 I B	2		中高（公民）
経済学	経済学特論 A	2	特化構造形成論や世界システム論等の理論仮説を吟味しながら，世界経済の構造と歴史を検討する。	小
	経済学特論 B	2		中高（公民）
	経済学特論演習 I A	2	現代の世界経済について，実態調査報告書や国際比較統計等を活用しながら検討する。	小
	経済学特論演習 I B	2		中高（公民）
	経済学特論演習 I B	2		小
	経済学特論演習 II B	2		中高（公民）
社会学	社会学特論 A	2	社会学の重要な諸文献を検討することを通じて，社会学的認識方法を習得することを目指す。	小
	社会学特論 B	2		中高（公民）
	社会学特論 C	2		小
	社会学特論 D	2		中高（公民）
	社会学特論演習 A	2	社会学的な研究を進めていく上での諸局面について学び，社会学的な論文を作成する力を高めることを目指す。	小
	社会学特論演習 B	2		中高（公民）
	社会学特論演習 C	2		小
	社会学特論演習 D	2		中高（公民）
哲学	哲学特論 A	2	哲学史を概観し，主要な哲学的見解について検討する。また，哲学のテキストだけでなく，さまざまな題材を通じて思索する方法も学ぶ。	小
	哲学特論 B	2		中高（公民）
	哲学特論 C	2		小
	哲学特論 D	2		中高（公民）
	哲学特論演習 A	2	哲学の主要な文献を講読しながら，あわせて原書も参照しつつ，哲学的な解釈や議論の方法について理解を深める。西洋哲学だけでなく，日本の思想についても扱う。	小
	哲学特論演習 B	2		中高（公民）
	哲学特論演習 C	2		小
	哲学特論演習 D	2		中高（公民）

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
社会 会 科 教 育	社会科教育特論ⅠA	2	社会科教育の目的、内容構成、授業方法等を検討し、社会科教育の成果と課題を追求する。	小	
	社会科教育特論ⅠB	2		中高（地歴）	
	社会科教育特論ⅠC	2		小	
	社会科教育特論ⅠD	2		中高（公民）	
	社会科教育特論演習ⅠA	2	社会科の成立と展開に関わる重要な資料を検討する。	小	
	社会科教育特論演習ⅠB	2		中高（地歴）	
	社会科教育特論演習ⅠC	2		小	
	社会科教育特論演習ⅠD	2		中高（公民）	
	社会科教育特論ⅡA	2	社会科教育の国際化を考慮した実践例をとりあげ研究を行う。	小	
	社会科教育特論ⅡB	2		中高（地歴）	
	社会科教育特論ⅡC	2		小	
	社会科教育特論ⅡD	2		中高（公民）	
	社会科教育特論演習ⅡA	2	社会科教育に関する地域教材・授業開発に関する事例研究を行う	小	
	社会科教育特論演習ⅡB	2		中高（地歴）	
	社会科教育特論演習ⅡC	2		小	
	社会科教育特論演習ⅡD	2		中高（公民）	
	地域学習特論A	2	地域（特に沖縄）学習について講義する。	小	
	地域学習特論B	2		中高（公民）	
	地域学習演習A	2	地域学習特論の講義に関する演習を行う。	小	
	地域学習演習B	2		中高（地歴）	
分野 外	教育実践に関する科目	社会科授業研究Ⅰ	2	いくつかの優れた社会科実践や具体的な教材を取り上げ、その分析を試みさせる。	小
		社会科授業研究Ⅱ	2	〃	中高（地歴）
		社会科授業研究Ⅲ	2	〃	中高（公民）
		社会科教育教材開発Ⅰ	2	社会科教材の創造と活用について探求する。	小
		社会科教育教材開発Ⅱ	2	〃	中高（地歴）
		社会科教育教材開発Ⅲ	2	〃	中高（公民）
	課題研究	課題研究Ⅰ	1	専修内の諸特定課題に対し、文献研究、データ分析、調査、実践等を通して、修士論文の作成指導にあたる。	
		課題研究Ⅱ	1		
		課題研究Ⅲ	1		
		課題研究Ⅳ	1		

iii) 英語教育領域

(注) 原則として科目名の「Ⅰ」は前学期, 「Ⅱ」は後学期開講とする。

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
英語学	英語学特論Ⅰ	2	英語統合論, 音韻論を主として生成文法理論に基づいて, 体系的に考察, 論述する。	中高
	英語学特論Ⅱ	2	英語意味論を中心に語用論, 談話分析を加えて考察する。特に三者の相互関係に注意する。	中高
	言語学特論	2	最近の言語論の展望と言語学の中心課題について従来の言語理論との比較をふまえて論述する。	中高
	言語学特論演習	2	言語心理学, 社会言語学の文献の講読を通してその成果を探り, 英語教育への応用を検討する。	中高
英米文学	英文学特論Ⅰ	2	主要作家又はある時代の作家群を集中的に考究する。	中高
	英文学特論演習Ⅰ	2	文学史の時代区分に限定されることなく, 文学ジャンル, テーマ又は研究方法等を含めた研究成果を発表し, ディスカッションをする。	中高
	英文学特論Ⅱ	2	主要作家又はある時代の作家群を集中的に考究する。	中高
	英文学特論演習Ⅱ	2	文学史の時代区分に限定されることなく, 文学ジャンル, テーマ又は研究方法等を含めた研究成果を発表し, ディスカッションをする。	中高
	米文学特論Ⅰ	2	米文学の詩・小説・戯曲を集中的に考究する。	中高
	米文学特論演習Ⅰ	2	米文学の詩・小説・戯曲に関する研究成果を発表する。	中高
	米文学特論Ⅱ	2	米文学の詩・小説・戯曲を集中的に考究する。	中高
	米文学特論演習Ⅱ	2	米文学の詩・小説・戯曲に関する研究成果を発表する。	中高
英語科教育	英語科教育研究Ⅰ	2	外国語教育に関する研究方法の基礎理論について考察する。	中高
	英語科教育特論Ⅰ	2	外国語修得理論, 外国語学習理論に関わる諸要因について考察する。	中高
	英語科教育特論演習Ⅰ	2	主要な外国語教授法について研究し, 現実の教室での使用可能性について検討する。	中高

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
英語科教育	応用言語学特論Ⅰ	2	応用言語学に関する特定のテーマについて、文献を読むことにより、研究方法について考究する。	中高	
	英語科教育研究Ⅱ	2	外国語教育に関する研究方法、及び外国語教育論文作成法について考察する。	中高	
	英語科教育特論Ⅱ	2	外国語修得理論、外国語学習理論に基づき、英語科教材の開発方法について考察する。	中高	
	英語科教育特論演習Ⅱ	2	主要な外国語教授法について研究するとともに、国際理解教育、外国語教育政策、小学校英語教育などについて研究する。	中高	
	応用言語学特論Ⅱ	2	応用言語学に関する特定のテーマについての理論的背景に基づき研究課題を設定し、適切な研究手法を用いて実験データを収集、分析、そして様々な視点から考察を行う。	中高	
	応用言語学演習	2	英語教育と実践にかかわる諸問題について考察する。特に教室における言語学習と言語指導に焦点を置く。	中高	
分野	教育実践に関する科目	英語教育授業研究	2	英語科授業分析・診断の方法の研究と実践について考究する。	中高
		英語教育教材開発	2	シラバス理論、教材編成理論に基づく英語教材開発方法の研究及び実践について考究する。	中高
外	課題研究	課題研究Ⅰ	2	特定の研究テーマを設定し研究を深める。	
		課題研究Ⅱ	2		

2) 自然科学教育専修

i) 数学教育領域

分野	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
代 数 学	代数学特論A	2	群論, ホモロジー代数について講義する。	小
	代数学特論演習A	2	代数学特論Aの講義に関する演習を行う。	小
	代数学特論B	2	環論, 体論について講義する。	中高
	代数学特論演習B	2	代数学特論Bの講義に関する演習を行う。	中高
幾 何 学	幾何学特論A	2	グラフ理論について講義する。	小
	幾何学特論演習A	2	幾何学特論Aの講義に関する演習を行う。	小
	幾何学特論B	2	離散幾何学について講義する。	中高
	幾何学特論演習B	2	幾何学特論Bの講義に関する演習を行う。	中高
	離散数学特論A	2	基本的な離散構造について講義する。	小
	離散数学特論演習A	2	離散数学特論Aの講義に関する演習を行う。	小
	離散数学特論B	2	離散数学における種々の手法について講義する。	中高
	離散数学特論演習B	2	離散数学特論Bの講義に関する演習を行う。	中高
解 析 学 及 び 応 用 数 学	解析学特論A	2	実解析および関数解析学について講義する。	小
	解析学特論演習A	2	解析学特論Aの講義に関する演習を行う。	小
	解析学特論B	2	複素解析学について講義する。	中高
	解析学特論演習B	2	解析学特論Bの講義に関する演習を行う。	中高
	応用数学特論A	2	数理物理学, 微分方程式論について講義する。	小
	応用数学特論演習A	2	応用数学特論Aの講義に関する演習を行う。	小
	応用数学特論B	2	解析学の応用についての話題を選らんで講義する。	中高
	応用数学特論演習B	2	応用数学特論Bの講義に関する演習を行う。	中高

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
解析学及び応用数学	情報数学特論A	2	情報理論について講義する。	小	
	情報数学特論演習A	2	情報数学理論Aに関する演習を行う。	小	
	情報数学特論B	2	情報理論の特定分野に関する講義を行う。	中高	
	情報数学特論演習B	2	情報数学特論Bに関する演習を行う。	中高	
数学科教育	数学教育学特論A	4	算数教育教材論について講義する。	小	
	数学教育学特論演習A	2	数学教育学特論Aの講義に関する演習を行う。	小	
	数学教育学特論B	4	数学教育教材論について講義する。	中高	
	数学教育学特論演習B	2	数学教育学特論Bの講義に関する演習を行う。	中高	
	数学教育学特論C	2	適宜テーマを設定して講義する。	中高	
分野共通専門科目	数学教育基礎論A	4	数学教育の基礎理論について講義する。	小	
	数学教育基礎論演習A	2	数学教育基礎論Aに関する演習を行う。	小	
	数学教育基礎論B	4	適宜テーマを設定して講義する。	中高	
	数学教育基礎論演習B	2	数学教育基礎論Bに関する演習を行う。	中高	
分野外	教育実践に関する科目	数学教育授業研究A	2	算数の授業について考究する。	小
		数学教育授業研究B	2	数学の授業について考究する。	中高
		数学教育教材開発A	2	算数の教材について考究する。	小
		数学教育教材開発B	2	数学の教材について考究する。	中高
	課題研究	課題研究Ⅰ	2	修士論文に関する指導を行う。	/
		課題研究Ⅱ	2	修士論文に関する指導を行う。	

ii) 理科教育領域

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
物理学	物理学特論A	2	小学校理科に関する熱・統計物理学や固体物理学について講義する。	小
	物理学特論演習A1	2	同上に関する文献の講読, 演習を行う。	小
	物理学特論演習A2	2	演習A1の内容をさらに深めて演習を行う。	小
	応用物理学特論A	2	小学校理科に関連する材料工学やエネルギー材料について講義する。	小
	応用物理学特論演習A1	2	同上に関する文献の講読, 演習を行う。	小
	応用物理学特論演習A2	2	演習A1の内容をさらに深めて演習を行う。	小
	物理学特論B	2	熱・統計物理学や固体物理学に関連する分野について講義する。	中高
	物理学特論演習B1	2	同上に関する文献の講読, 演習を行う。	中高
	物理学特論演習B2	2	演習B1の内容をさらに深めて演習を行う。	中高
	応用物理学特論B	2	材料工学やエネルギー材料について講義する。	中高
	応用物理学特論演習B1	2	同上に関する文献の講読, 演習を行う。	中高
	応用物理学特論演習B2	2	演習B1の内容をさらに深めて演習を行う。	中高
化学	有機化学特論A	2	小学校理科に関連する有機化学の反応や理論について講義する。	小
	有機化学特論演習A1	2	同上に関する文献の講読, 演習を行う。	小
	有機化学特論演習A2	2	演習A1の内容をさらに深めて演習を行う。	小
	有機化学特論B	2	有機化合物の構造, 反応, 合成について講義する。	中高
	有機化学特論演習B1	2	有機化合物の構造, 反応, 合成に関する文献の講読, 問題演習を行う。	中高
	有機化学特論演習B2	2	演習1の内容をさらに深めて演習を行う。	中高
	無機化学特論A	2	小学校理科(化学分野)に関連する無機化学の反応や理論について講義する。	小
	無機化学特論演習A1	2	同上に関する文献の講読及び問題演習を行う。	小
	無機化学特論演習A2	2	演習A1の内容をさらに深めて演習を行う。	小
	無機化学特論B	2	無機化学, 分析化学, 物理化学に関する基礎と応用について講義する。	中高
	無機化学特論演習B1	2	同上に関する文献の講読および問題演習を行う。	中高
	無機化学特論演習B2	2	演習B1の内容をさらに深めて演習を行う。	中高

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
生物学	動物分類生態学特論 A	2	動物の生態, 分類, 系統, 生物地理に関する研究手法やデータの処理法を論ずる。	小
	動物分類生態学特論演習 A1	2	同上に関する文献の講読を行い, 広く論議する。	小
	動物分類生態学特論演習 A2	2	演習 A1の内容をさらに深めて演習を行う。	小
	動物分類生態学特論 B	2	動物の生態, 分類, 系統, 生物地理に関する研究手法やデータの処理法を論ずる。	中高
	動物分類生態学特論演習 B1	2	同上に関する文献の講読を行い, 広く論議する。	中高
	動物分類生態学特論演習 B2	2	演習 B1の内容をさらに深めて演習を行う。	中高
	植物分類系統学特論 A	2	植物分類学の方法論とその成果を基礎に小学校理科に関連する事象について講義する。	小
	植物分類系統学特論演習 A1	2	同上に関する方法論と実験・調査への適用のため, 関連論文の講読及び実習を行う。	小
	植物分類系統学特論演習 A2	2	演習 A1の内容をさらに深めるため, 論文講読・実習等の演習を行う。	小
	植物分類系統学特論 B	2	植物の多様性を理解するため, 植物分類学の方法論とその成果について講義する。	中高
	植物分類系統学特論演習 B1	2	同上に関する方法論と実験・調査への適用のため, 関連論文の講読及び実習を行う。	中高
	植物分類系統学特論演習 B2	2	演習 B1の内容をさらに深めるため, 論文講読・実習等の演習を行う。	中高
地学	微古生物学特論 A	2	微化石の分類及び古環境指示者としての役割について論じる。また教材化を提案する。	小
	微古生物学特論演習 A1	2	微化石の研究の実際について解説し, 実習を行う。	小
	微古生物学特論演習 A2	2	上記特論 A及び演習 A1に関連した文献の講読を行う。	小
	微古生物学特論 B	2	微化石の分類, 生層序, 古生物地理, 古環境の指示者としての役割について論じる。	中高
	微古生物学特論演習 B1	2	微化石の研究の実際について解説し, 実習も行う。	中高
	微古生物学特論演習 B2	2	上記特論 B及び演習 B1に関連した文献の講読を行う。	中高
	地殻進化学特論 A	2	変成岩類の形成プロセスについて理解し, 地殻進化過程を考察する。小学校教員にふさわしい理解力や解説力を培う。	小
	地殻進化学特論演習 A1	2	始生代から現在に至る地殻形成過程及び大陸地殻の進化について岩石学的見地から最近の研究結果を交えて考察する。小学校教員にふさわしい理解力や解説力を培う。	小

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
地学	地殻進化学特論演習 A2	2	地殻形成過程や大陸地殻の発達に関する研究論文を和訳し、実際の研究例を知ることによって理解を深める。小学校教員にふさわしい理解力や解説力を培う。	小
	地殻進化学特論 B	2	変成岩について岩石学的、構造地質学的見地からその形成プロセスを把握し地殻進化過程を考察する。	中高
	地殻進化学特論演習 B1	2	始生代から現在に至る地殻形成過程及び大陸地殻の進化について岩石学的見地から最近の研究結果を交えて考察する。	中高
	地殻進化学特論演習 B2	2	地殻形成過程や大陸地殻の発達に関する研究論文を和訳し、実際の研究例を知ることによって理解を深める。また、英語による記述や表現を習得する。	中高
理科教育	理科教育特論 A1	2	小学校における自然科学教育（主に物質・エネルギー分野）に関連する諸研究、諸実験等について概説する。	小
	理科教育特論演習 A1	2	小学校における自然科学教育（主に物質・エネルギー分野）に関連する諸研究、諸実験等について、文献講読や観察・実験、演習を行う。	小
	理科教育特論 B1	2	中学校・高等学校理科教育（主に第一分野）に関連する諸研究、諸実験等について概説する。	中高
	理科教育特論演習 B1	2	中学校・高等学校理科教育（主に第一分野）に関連する諸研究、諸実験等について、文献講読や観察・実験、演習を行う。	中高
	理科教育特論 A2	2	小学校理科「生命・地球」領域における沖縄県の自然の特徴を生かした授業について考察する。	小
	理科教育特論演習 A2	2	小学校理科「生命・地球」領域において沖縄県の自然の特徴を生かした授業実践に関する演習を行う。	小
	理科教育特論 B2	2	中学校理科第2分野の地質・天文・海洋生物に関連する単元において、沖縄県の自然の特徴を生かした授業について考究する。	中高
	理科教育特論演習 B2	2	中学校理科第2分野の地質・天文・海洋生物に関する単元において、沖縄県の自然の特徴を生かした授業実践に関する演習を行う。	中高
共通	理科教育特別講義 A1	2	自然科学各分野のテーマを適宜設定して講義する。	
	理科教育特別講義 A2	2	自然科学各分野のテーマを適宜設定して講義する。	
	理科教育特別講義 B1	2	自然科学各分野のテーマを適宜設定して講義する。	
	理科教育特別講義 B2	2	自然科学各分野のテーマを適宜設定して講義する。	

分野		授業科目	単位	概要	教職課程
分野外	教育実践に関する科目	理科教育実践研究A1	2	小学校の理科教育に関する実践事例を調査・分析し、理科教育を実践するために必要な基礎的な考え方や方法について考察する。	小
		理科教育実践研究A2	2	小学校理科について、計画と実践、分析を繰り返しながら、自分の専門知識を生かした授業づくりに取り組む。	小
		理科教育実践研究B1	2	中学校・高校の理科教育に関する実践事例を調査・分析し、理科教育を実践するために必要な基礎的な考え方や方法について考察する。	中高
		理科教育実践研究B2	2	中学校・高校理科について、計画と実践、分析を繰り返しながら、自分の専門知識を生かした授業づくりに取り組む。	中高
	課題研究	課題研究Ⅰ	2	各専門分野について、特定のテーマを設定し研究を深め、修士論文の作成指導にあたる。	
		課題研究Ⅱ	2	各専門分野について、特定のテーマを設定し研究を深め、修士論文の作成指導にあたる。	

3) 芸術表現教育専修

i) 音楽教育領域

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
声 楽	声楽特論A I	2	幼稚園及び小学校教諭として音楽性を高めるために、ドイツ、イタリア、フランス、スペイン等の作品を取り上げて分析、解釈、考究し、併せて作曲家論の深化を図る。又、音と言葉の関係について、国民性や民族性、文化構造、価値観等を視野に入れて考究する。	小
	声楽特論演習A I	2	声楽特論A Iの研究に基づき、演奏を通して、声楽表現の可能性を演習し追及する。	小
	声楽特論A II	2	幼稚園及び小学校教諭として音楽性を高めるために、ドイツ、イタリア、フランス、スペイン等の作品を取り上げて分析、解釈、考究し、併せて作曲家論の深化を図る。又、音と言葉の関係について、国民性や民族性、文化構造、価値観等を視野に入れて考究する。	小
	声楽特論演習A II	2	声楽特論演習A Iに引き続き、さらに声楽特論A IIの研究に基づき、演奏を通して、声楽表現の可能性を演習し追及する。	小
	声楽特別研究A	2	ミュージカルについて研究する。ミュージカルを総合舞台芸術的集団活動の観点からとらえ、その制作プロセスや上演法・組織運営法について、また作品について、分析、考究し演習する。	小
	声楽特論B I	2	ドイツ、イタリア、フランス、スペイン等の作品を取り上げて分析、解釈、考究し、併せて作曲家論の深化を図る。又、音と言葉の関係について、国民性や民族性、文化構造、価値観等を視野に入れて考究する。	中高
	声楽特論演習B I	2	声楽特論B Iの研究に基づき、演奏を通して、声楽表現の可能性を演習し追及する。	中高
	声楽特論B II	2	声楽特論B Iに引き続き、さらにドイツ、イタリア、フランス、スペイン等の作品を取り上げて分析、解釈、考究し、併せて作曲家論の深化を図る。又、音と言葉の関係について、国民性や民族性、文化構造、価値観等を視野に入れて考究する。	中高
	声楽特論演習B II	2	声楽特論B IIの研究に基づき、演奏を通して、声楽表現の可能性を演習し追及する。	中高
	声楽特別研究B	2	声楽特別研究にAに引き続き、さらにミュージカルについて研究する。ミュージカルを総合舞台芸術的集団活動の観点からとらえ、その制作プロセスや上演法・組織運営法について、また作品について、分析、考究し演習する。	中高

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
器 楽	器楽特論A I (鍵盤楽器)	2	幼稚園および小学校教諭として知識を高めるために、各国(東欧、中欧、西欧、南欧、中南米)の文化、国民性にも注目しながら音楽史を踏まえ、それぞれの時代の様式を探る。	小
	器楽特論演習A I (鍵盤楽器)	2	器楽特論A Iの研究に基づき、東欧・中欧・西欧・南欧・中南米の各国の文化、国民性に注目しながら音楽史を踏まえ、その楽器の演奏を通してそれぞれの時代、国民性による表現の多様性を探る。	小
	器楽特論B I (鍵盤楽器)	2	器楽特論A Iの研究を踏まえ、広く世界の文化と歴史に注目しながら多様な表現をより深く研究する。	中高
	器楽特論演習B I (鍵盤楽器)	2	器楽特論B Iの研究に基づき、実際の演奏を通して、その多様な表現を追求する。	中高
	器楽特論A II (弦楽器)	2	幼稚園及び小学校教諭として音楽性を高める為に、器楽教育の必要性が音楽教師にとって、今や最も直面した現実である。その歴史的変遷や導入の方法等の諸問題について研究する。	小
	器楽特論演習A II (弦楽器)	2	器楽特論A IIの研究に基づき、演奏を通して、楽器による表現の可能性を演習し追求する。	小
	器楽特論B II (弦楽器)	2	器楽教育の必要性が音楽教師にとって、今や最も直面した現実である。その歴史的変遷や導入の方法等の諸問題について研究する。	中高
	器楽特論演習B II (弦楽器)	2	弦楽器の全般について、その機能や特性を比較対照しながら高度な演奏表現を演習する。	中高
	器楽特別研究A	2	ピアノを含むアンサンブル、更にピアノの伴奏楽器としての役割等を考察し、独奏とは異なる観点から演奏上の諸問題を研究する。更に教育機器としてのピアノ及びアコーディオン導入の可能性も考察する。	小
器楽特別研究B	2	ピアノを含むアンサンブル、更にピアノの伴奏楽器としての役割等を考察し、独奏とは異なる観点から演奏上の諸問題を研究する。更に教育機器としてのピアノ及びアコーディオン導入の可能性も考察する。	中高	
作曲 ・ 指揮	作曲特論A	2	幼稚園及び小学校教諭として表現力を高める為に、19C～21Cの諸音楽を作曲技法・演奏様式の視点から分析・鑑賞し、それらの様式を体系的に理解する。併せてそれらの音楽の背景となる文化構造も視野に入れながら、多様な角度から音楽作品の成立の仕方と特徴を研究する。	小
	作曲特論演習A I	2	幼稚園及び小学校教諭として表現力を高める為に、管弦楽法・楽式論・和声学の演習を通し、作曲技法を学ぶ。併せて学校音楽教材への分析的・作編曲的アプローチの方法を確立する。	小

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
作曲・指揮	作曲特論演習 A II	2	幼稚園及び小学校教諭として表現力を高める為に、作曲特論及び特論演習 I で論及・演習した内容に基づき、各種演奏形態の楽曲を作曲し、高度な創作能力を養う。	小
	作曲特論 B	2	19C～21Cの諸音楽を作曲技法・演奏様式の視点から分析・鑑賞し、それらの様式を体系的に理解する。併せてそれらの音楽の背景となる文化構造も視野に入れながら、多様な角度から音楽作品の成立の仕方と特徴を研究する。	中高
	作曲特論演習 B I	2	管弦楽法・楽式論・和声学の演習を通し、作曲技法を学ぶ。併せて学校音楽教材への分析的・作編曲的アプローチの方法を確立する。	中高
	作曲特論演習 B II	2	作曲特論及び特論演習 I で論及・演習した内容に基づき、各種演奏形態の楽曲を作曲し、高度な創作能力を養う。	中高
音楽学	音楽学特論 A	2	幼稚園及び小学校教諭として論理性を高める為に、音楽が社会的文脈でどのように成立し、また、どのような存在意義を有しているかを民族音楽学・音楽史・音楽社会学の知見に学びながら研究する。	小
	音楽学特論演習 A I	2	幼稚園及び小学校教諭として論理性を高める為に、特定領域の音楽学をその歴史と文化背景から演習し、分析と鑑賞法の研究を行う。	小
	音楽学特論演習 A II	2	幼稚園及び小学校教諭として論理性を高める為に、音楽学特論及び特論演習 I で研究した内容に基づき、教育現場での実践的な活用およびその分析を行う。	小
	音楽学特論 B	2	音楽が社会的文脈でどのように成立し、また、どのような存在意義を有しているかを民族音楽学・音楽史・音楽社会学の知見に学びながら研究する。	中高
	音楽学特論演習 B I	2	特定領域の音楽学をその歴史と文化背景から演習し、分析と鑑賞法の研究を行う。	中高
	音楽学特論演習 B II	2	音楽学特論及び特論演習 I で研究した内容に基づき、教育現場での実践的な活用およびその分析を行う。	中高
音楽科教育	音楽科教育特論 A	2	幼稚園及び小学校教諭として指導力を高める為に、わが国の音楽教育の歴史的展開を概観し、その理念、内容、教材、方法などについて主に文化論的な視点から考察する。	小
	音楽科教育特論演習 A	2	幼稚園及び小学校教諭として指導力を高める為に、音楽科教育特論で検討した内容をふまえて、戦後の音楽教育の主要なトピックスの中からいくつかとりあげて詳細に史実を検討するとともに、その歴史的な意味について考察する。	小
	音楽科教育特論 B	2	わが国の音楽教育の歴史的展開を概観し、その理念、内容、教材、方法などについて主に文化論的な視点から考察する。	中高

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
音楽科教育	音楽科教育特論演習 B	2	音楽科教育特論で検討した内容をふまえ、戦後の音楽教育の主要なトピックスの中からいくつかとりあげて詳細に史実を検討するとともに、その歴史的な意味について考察する。	中高	
	音楽科教育研究法 A	2	幼稚園及び小学校教諭として指導力を高める為に、日本内外の音楽教育哲学や思潮を歴史的に概観し、それらに基づく教育方法を比較分析し、日本に於ける音楽教育の在り方を考察する。	小	
	音楽科教育研究法演習 A	2	幼稚園及び小学校教諭として指導力を高める為に、世界で実践されている様々な音楽指導方法の演習を行う。	小	
	音楽科教育研究法 B	2	日本内外の音楽教育哲学や思潮を歴史的に概観し、それらに基づく教育方法を比較分析し、日本に於ける音楽教育の在り方を論ずる。	中高	
	音楽科教育研究法演習 B	2	世界で実践されている様々な音楽指導方法を実践的に経験し、日本に於ける新しい音楽教育の指導法と教材開発を研究する。	中高	
分野外	教育実践に関する科目	音楽科授業研究 A	2	幼稚園及び小学校教諭として指導力を高める為に、音楽科における授業構成の方法論、授業研究の対象、授業モデルとその構成要因などについて考察する。	小
		音楽科授業研究 B	2	音楽科における授業構成の方法論、授業研究の対象、授業モデルとその構成要因などについて考察する。	中高
		音楽科教材開発 A	2	幼稚園及び小学校教諭として指導力を高める為に、音楽科における教材の新しい開発事項や開発方法について研究指導する。	小
		音楽科教材開発 B	2	音楽科における教材の新しい開発事項や開発方法について研究指導する。	中高
分野外	課題研究	課題研究 I	1	修士論文に直結する研究であり、学校教諭としての総合力を高める為に、学生各自の研究課題について教員は個人指導方式で助言を行う。	/
		課題研究 II	1		
		課題研究 III	1		
		課題研究 IV	1		

ii) 美術教育領域

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
絵 画	幼小絵画特論 I	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、絵画分野を中心に現代美術の諸問題について理論研究を行う。	小
	幼小絵画特論演習 I	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	幼小絵画特論 II	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、絵画分野を中心に現代美術の諸問題について理論研究を行う。	小
	幼小絵画特論演習 II	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	絵画特論 I	2	美術史的観点を踏まえ「美術」の制度性について考察しつつ、絵画分野を中心に現代美術の諸問題について理論研究を行う。	中・高 (美術)
	絵画特論演習 I	2	上記の研究に基づく演習を行う。	中・高 (美術)
	絵画特論 II	2	日本美術を含む東アジア美術の特性を考察しつつ、絵画分野を中心に現代美術の諸問題について理論研究を行う。	中・高 (美術)
	絵画特論演習 II	2	上記の研究に基づき演習を行う。	中・高 (美術)
彫 刻	幼小彫刻特論 I	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、表現活動を彫刻及び人類文化の流れと共に考察する。	小
	幼小彫刻特論演習 I	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	幼小彫刻特論 II	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、現代社会における美術の在り方について彫刻分野を中心に考究する。	小
	幼小彫刻特論演習 II	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	彫刻特論 I	2	表現活動を彫刻及び人類文化の流れと共に考察する。	中・高 (美術)
	彫刻特論演習 I	2	上記研究に基づく演習を行う	中・高 (美術)
	彫刻特論 II	2	現代社会における美術の在り方について彫刻分野を中心に考究する。	中・高 (美術)
	彫刻特論演習 II	2	上記研究に基づく演習を行う	中・高 (美術)
	総合表現特論 A	2	美術の各分野にまたがる諸問題について考究する。	中・高 (美術)
デ ザ イ ン	幼小デザイン特論 I	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、環境とデザイン・芸術表現の諸問題について地球的視野から考察する。	小
	幼小デザイン特論演習 I	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	幼小デザイン特論 II	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、現代社会における芸術とデザインの意義について考察する。	小
	幼小デザイン特論演習 II	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
デザイン	デザイン特論 A I	2	現代アートとデザインに関する諸問題について考究する。	中・高(美術) 高(工芸)
	デザイン特論演習 A I	2	上記特論に基づいた演習を行う。	中・高(美術) 高(工芸)
	デザイン特論 A II	2	地域デザインに関する理論的研究を行う。	中・高(美術) 高(工芸)
	デザイン特論演習 A II	2	上記特論に基づいた演習を行う。	中・高(美術) 高(工芸)
	デザイン特論 B I	2	現代社会において芸術とデザインの意義について考究する。	中・高(美術) 高(工芸)
	デザイン特論演習 B I	2	上記研究に基づいた演習を行う。	中・高(美術) 高(工芸)
工芸	幼小陶芸特論 I	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、陶芸表現の可能性について考察を行う。	小
	幼小陶芸特論演習 I	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、陶芸表現の可能性について実技、理論の双方から考察を行う。	小
	幼小陶芸特論 II	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、陶芸表現の可能性について考察を行う。	小
	幼小陶芸特論演習 II	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、陶芸表現の可能性について実技、理論の双方から考察を行う。	小
	陶芸特論 I	2	芸術表現における陶芸領域の可能性について、考察を行う。	中(美術) 高(工芸)
	陶芸特論演習 I	2	芸術表現における陶芸領域の可能性について、実技、理論の双方から考察を行う。	中(美術) 高(工芸)
	陶芸特論 II	2	芸術表現における陶芸領域の可能性について、考察を行う。	中(美術) 高(工芸)
	陶芸特論演習 II	2	芸術表現における陶芸領域の可能性について、実技、理論の双方から考察を行う。	中(美術) 高(工芸)
	幼小織染特論 I	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、織染制作における素材と表現の関わり合いについて考察する。	小
	幼小織染特論演習 I	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	幼小織染特論 II	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、織染文化について総合的に考察する。	小
	幼小織染特論演習 II	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	織染特論 I	2	織染制作における素材と表現の関わり合いについて考察する。	中(美術) 高(工芸)
	織染特論演習 I	2	上記研究に基づく演習を行う。	中(美術) 高(工芸)
	織染特論 II	2	織染文化について総合的に考察する。	中(美術) 高(工芸)
	織染特論演習 II	2	上記研究に基づく演習を行う。	中(美術) 高(工芸)

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
美術理論・美術史	幼小美術理論・美術史特論Ⅰ	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、美術理論・美術史に関する基礎理論の体系的な研究能力を養う。	小
	幼小美術理論・美術史特論演習Ⅰ	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	幼小美術理論・美術史特論Ⅱ	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高める基礎となるよう、美術理論・美術史に関する基礎理論の体系的な研究能力を養う。	小
	幼小美術理論・美術史特論演習Ⅱ	2	上記の研究に基づく演習を行う。	小
	美術理論・美術史特論Ⅰ	2	美術理論・美術史に関する基礎理論の体系的な研究能力を養う。	中・高(美術) 高(工芸)
	美術理論・美術史特論演習Ⅰ	2	上記研究に基づく演習を行う。	中・高(美術) 高(工芸)
	美術理論・美術史特論Ⅱ	2	美術理論・美術史に関する基礎理論の体系的な研究能力を養う。	中・高(美術) 高(工芸)
	美術理論・美術史特論演習Ⅱ	2	上記研究に基づく演習を行う。	中・高(美術) 高(工芸)
	総合表現特論B	2	美術の各分野にまたがる諸問題について考究する。	中・高(美術) 高(工芸)
	総合表現特論C	2	美術の各分野にまたがる諸問題について考究する。	中・高(美術) 高(工芸)
	総合表現特論演習B	2	総合表現特論Bに基づく演習を行う。	中・高(美術) 高(工芸)
	総合表現特論演習C	2	総合表現特論Cに基づく演習を行う。	中・高(美術) 高(工芸)
美術科教育	幼小美術教育特論	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高めるため、美術教育の目標、内容、教育方法等について考察し、表現教育に関わる教師の在り方を追及する。	
	幼小美術教育基礎論	2	幼稚園及び小学校教諭としての力量を高めるため、美術教育の基礎理論について諸考究を行う。	
	幼小美術教育特論演習	2	幼小美術教育特論に基づく演習を行う。	
	幼小美術教育授業研究演習	2	幼小美術教育授業研究に基づく演習を行う。	
	幼小美術教育教材開発演習	2	幼小美術教育教材開発に基づく演習を行う。	
	美術教育特論	2	美術教育の目標、内容、教育方法等について考察し、表現教育に関わる教師の在り方を追及する。	
	美術教育基礎論	2	美術教育の基礎理論について諸考究を行う。	
	美術教育特論演習	2	美術教育特論に基づく演習を行う。	

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
美術科教育	美術教育授業研究演習	2	美術教育授業研究に基づく演習を行う。	
	美術教育教材開発演習	2	美術教育教材開発に基づく演習を行う。	
	工芸教育特論	2	工芸教育の目標、内容、教育方法等について考察し、工芸教育に関わる教師の在り方を追及する。	
	工芸教育基礎論	2	工芸教育の基礎理論について諸考究を行う。	
	工芸教育授業研究演習	2	工芸教育授業研究に基づく演習を行う。	
	工芸教育特論演習	2	工芸教育特論に基づく演習を行う。	
	工芸教育教材開発演習	2	工芸教育教材開発に基づく演習を行う。	
分野外	幼小造形芸術特論Ⅰ	2	造形芸術の広範な領域から特定の課題を設定し考究を行う。	
	幼小造形芸術特論Ⅱ	2		
	幼小造形芸術実技Ⅰ	2	造形芸術の広範な領域から特定の課題を設定し実技を行う。	
	幼小造形芸術実技Ⅱ	2		
	幼小造形教育特論Ⅰ	2	造形教育の理論について特定の課題を設定し考究を行う。	
	幼小造形教育特論Ⅱ	2		
	造形芸術特論Ⅰ	2	造形芸術の広範な領域から特定の課題を設定し考究を行う。	
	造形芸術特論Ⅱ	2		
	造形芸術実技Ⅰ	2	造形芸術の広範な領域から特定の課題を設定し実技を行う。	
	造形芸術実技Ⅱ	2		
	造形教育特論Ⅰ	2	造形教育の理論について特定の課題を設定し考究を行う。	
	造形教育特論Ⅱ	2		

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
分野外	教育実践に関する科目	幼小美術教育授業研究	2 幼稚園及び小学校教諭としての力量を高めるため、子ども達を取り巻くさまざまな文化やコミュニケーションの成り立ち等も含めて考察するとともに、新たな授業実践の可能性を探求する。		
		幼小美術教育教材開発	2 幼稚園及び小学校教諭としての力量を高めるため、美術教育の教材について研究を行う。		
		美術教育授業研究	2 教科としての美術教育の在り方を学校教育全体の営みの中でとらえ直し、子ども達を取り巻くさまざまな文化やコミュニケーションの成り立ち等も含めて考察するとともに、新たな授業実践の可能性を探求する。		
		美術教育教材開発	2 美術教育の教材について研究を行う。		
		工芸教育授業研究	2 工芸教育の新たな授業実践の可能性を探求する。		
		工芸教育教材開発	2 工芸教育の教材について研究を行う。		
	課題研究	課題研究Ⅰ	2	各分野のより高度で専門的な研究を行い、学位論文、制作に結びつける。	
		課題研究Ⅱ	2		

4) 生活科学教育専修

i) 技術教育領域

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
電	電磁波工学特論	2	電磁波（マイクロ波，光を含む）は，ラジオに始まり，無線通信・光ファイバ通信，各種センサ，レーダ，及び医療応用など，極めて広範囲で活用されており，近年では携帯電話の普及で児童生徒にも身近なものとなっている。本講義では，電磁波に関する基礎知識，電磁環境から電磁波工学の基礎的な理論について具体的系統的に扱うと共に，電磁波を用いた教材開発についても講述する。	中（技術） 高（工業）
	制御工学特論	2	伝達関数やフィードバック制御を中心とした古典制御理論の講義を主とし，オープンソースの数値計算ソフトウェアを用いながら制御システムの設計・解析を行う。また，PIC（Iチップマイコン）を用いた計測制御教材についても扱う。	中（技術） 高（工業）
	電子応用工学特論	2	電子工学と機械工学を融合したメカトロニクスの構成要素であるセンサ、アクチュエータ、機械機構とその制御方法について後述し，簡単な電子機器教材の設計・製作についても開設する。	中（技術） 高（工業）
	量子電子工学特論	2	現代の半導体技術を講述する。すなわち，キャリア輸送現象および深い不純物レベル，表面・界面における電子物性等を略述し，半導体の電導理論を解説する。さらに，集積回路の製造技術を解説し，その回路解析をSPICE，レイアウトをCADを用いて実習する。	中（技術） 高（工業）
気	デジタル通信工学特論演習	2	デジタル通信の基礎である高周波技術，デジタル変復調技術，フレーム処理／誤り訂正の技術について講義，演習を行う。また，デジタル放送，携帯電話，ワイヤレスネットワーク等への応用について解説する。また，A/D，D/A変換について実験を行う。	中（技術） 高（工業）
	計算機工学特論	2	情報認識について講述する。すなわち計算機の新しいアーキテクチャとオペレーティングシステムについて解説し，画像・音声等に関連した認識技術，フィルタリング技術の講義，演習を行う。また，音声合成等に関しても解説，実習を行う。	中（技術） 高（工業）
	知能情報処理特論演習	1	マイコンの機能を利用した周辺装置との通信や液晶のコントロール，アナログ信号の入力など，計測機器の製作に必要な知識の解説およびプログラミング演習を行う。	中（技術） 高（工業）
	人工知能工学特論演習	1	人工知能の基礎である探索，推論，プランニングの理論について講義，演習を行う。また，画像認識，自然言語処理，自動翻訳，運動制御などの分野への応用についても解説する。	中（技術） 高（工業）

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
機 械	計測技術特論	2	実験データの解析および変位，流量，圧力，温度の各種測定法について考究する。	中（技術） 高（工業）	
	計測技術特論演習	1	計測における目標設定能力を高めるため，種々の制限条件を分析的にとらえ，具体的な測定計画の立案実習を行う。	中（技術） 高（工業）	
	熱工学特論	2	流動と熱伝達について講述するとともに，これに関連する内外の文献を講読する。	中（技術） 高（工業）	
	熱工学特論演習	1	熱工学に関する具体的な測定計画の立案・実習を行う。	中（技術） 高（工業）	
	エネルギー変換工学特論	2	エネルギー・資源，エネルギー変換等に関連する内外の文献を講読する。	中（技術） 高（工業）	
	エネルギー変換工学特論演習	1	種々のエネルギー変換に関する演習を行う。	中（技術） 高（工業）	
技 術 科 教 育	技術教育特論Ⅰ	2	技術科教育の目標，内容論，方法論，教材論などについて論述する。	中（技術） 高（工業）	
	技術教育特論演習Ⅰ	1	文献の講読を通して，技術科教育の諸問題について考察する。	中（技術） 高（工業）	
	教材教具開発演習	2	技術科教育の目標，内容，方法などの観点から，最適な教材や教具の開発を行う。	中（技術） 高（工業）	
	技術教育特論Ⅱ	2	技術科教育における各領域の教材・教具の分析を行い，実践的カリキュラムおよび指導法の研究開発を行う。	中（技術） 高（工業）	
	技術教育特論演習Ⅱ	1	海外の技術教育カリキュラム論に関する文献を講読する。	中（技術） 高（工業）	
	安全工学特論	2	技術科実習室における安全作業法，災害の原因，事故防止法，保護具等について述べる。	中（技術） 高（工業）	
分 野	教 育 実 践 目 に 関 連	技術教育授業研究	2	国内外の技術科教育のすぐれた実践例を分析研究をする。	中（技術） 高（工業）
		技術教育教材開発	2	技術科の内容に関する教材の開発及び活用について実証的研究をする。	中（技術） 高（工業）
外 野	課 題 研 究	課題研究Ⅰ	1	自己の専門分野について，特定の研究テーマを設定し研究を深める。	
		課題研究Ⅱ	1	自己の専門分野について，特定の研究テーマを設定し研究を深める。	
		課題研究Ⅲ	1	自己の専門分野について，特定の研究テーマを設定し研究を深める。	
		課題研究Ⅳ	1	自己の専門分野について，特定の研究テーマを設定し研究を深める。	

ii) 家政教育領域

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
調理学	小学校調理学特論	2	小学校の家庭科教育の視点から日本・沖縄の食生活の変遷及び文化史的背景について考究する。	小
	小学校調理学特論演習	2	小学校調理学特論に関する文献・史料の講読及び事例研究。	小
	調理学特論Ⅰ	2	食事文化の視点から日本・沖縄の食生活の変遷および文化史的背景について考究する。	中高
	調理学特論演習Ⅰ	2	調理学特論Ⅰに関する文献・史料の講読および事例研究。	中高
	調理学特論Ⅱ	2	沖縄特産食品の調理機能特性，琉球料理の特徴，系譜および体系化について考究する。	中高
	調理学特論演習Ⅱ	2	調理学特論Ⅱに関する文献・史料の講読および事例研究。	中高
被服学	小学校被服学特論	2	小学校家庭科被服領域の被服の役割と着方，手縫いとミシン縫い等について考究する。	小
	小学校被服学特論演習	2	小学校被服学特論に関する文献講読・討論をふまえ，衣生活に関する事例研究を行う。	小
	被服学特論Ⅰ	2	健康と衣生活，衣服の変遷，世界の衣服について，気候風土，歴史，社会，文化との関連で論述する。	中高
	被服学特論演習Ⅰ	2	被服学特論Ⅰに関する文献講読および事例研究。	中高
	被服学特論Ⅱ	2	沖縄で古くから行われてきた染織の歴史的・文化的推移と，琉球王朝時代から近代へと変化する人々の装いについても，その時代背景をもとに論述する。	中高
	被服学特論演習Ⅱ	2	被服学特論Ⅱに関する文献講読および事例研究。	中高
住生活学	住まい学特論	2	小学校家庭科の住まいの領域を中心として，住まいの計画と住まい方について考究する。	小
	住まい学特論演習	2	住まい学特論に関連する文献講読及び討論を踏まえて，各自で設定したテーマについて事例研究を行う。	小
	住居学特論	2	住居形態を決定する様々な要因について，気候，風土的側面を中心に具体的事例を通して考察する。	中高
	住居学特論演習	2	住居計画の技術を習得するための事例調査等にもとづく演習を行う。	中高
	住生活学特論	2	多様化する家族形態やライフステージに対応した住生活と住宅計画のあり方について考察する。	中高
	住生活学特論演習	2	住生活学特論に関連する文献講読及び事例研究を行う。	中高

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
家庭管理学	小学校生活経営学・経済学特論	2	消費者教育の目的, 対象, 方法について考究する。	小	
	小学校生活経営学・経済学特論演習	2	小学校生活経営学・経済学特論での理論的学習を踏まえて, 各自が持っているテーマを関連づけた内容について, 調査・研究する。	小	
	生活経営学・経済学特論Ⅰ	2	消費者問題, 消費者運動, 消費者教育について生活者の立場から考究する。	中高	
	生活経営学・経済学特論演習Ⅰ	2	消費者問題, 消費者運動, 消費者教育に関する国内外文献の講読と討論を行う。	中高	
	生活経営学・経済学特論Ⅱ	2	生活経営学・経済学に関する基礎的理論について考究する。	中高	
	生活経営学・経済学特論演習Ⅱ	2	生活経営学・経済学に関する国内外文献の講読と討論を行う。	中高	
家庭科教育	小学校家庭科教育特論Ⅰ	2	小学校家庭科教育について総合的な観点から考究する。	小	
	小学校家庭科教育特論演習Ⅰ	2	小学校家庭科教育特論Ⅰに関する論文講読を行う。	小	
	家庭科教育特論Ⅰ	2	家庭科教育について総合的な観点から考究する。	中高	
	家庭科教育特論演習Ⅰ	2	家庭科教育特論Ⅰに関する論文講読を行う。	中高	
	小学校家庭科教育特論Ⅱ	2	小学校家庭科について国内外の研究をもとに, 今後の家庭科教育について考究する。	小	
	小学校家庭科教育特論演習Ⅱ	2	小学校家庭科教育特論Ⅱに関する論文講読と討論を行う。	小	
	家庭科教育特論Ⅱ	2	中・高等学校(専門学校を含む)における研究等をもとに, 今後の家庭科教育について考究する。	中高	
	家庭科教育特論演習Ⅱ	2	家庭科教育特論Ⅱに関する論文講読と討論を行う。	中高	
分野	教育実践に関する科目	小学校家政教育授業研究	2	小学校で実際に行われている授業を基に, 家庭科の授業について実践的に考究する。	小
		家政教育授業研究	2	中・高等学校で実際に行われている授業を基に, 家庭科の授業について実践的に考究する。	中高
		小学校家政教育教材開発	2	小学校家庭科の各領域の教材開発および活用について実践的に研究する。	小
		家政教育教材開発	2	家庭科の各領域の教材開発および活用について実践的に研究する。	中高
外	課題研究	課題研究Ⅰ	1	各専門分野について, 特定の研究テーマを設定し, 研究を深める。	/
		課題研究Ⅱ	1		
		課題研究Ⅲ	1		
		課題研究Ⅳ	1		

5) 保健体育専修

分野	授業科目	単位	概要	教職課程
保健体育科教育学	保健体育科教育特論 I	2	体育科教育の歴史及び現状を認識しつつ将来展望を構造的に捉え、生涯学習を視野に入れた体育科教育のあり方、目標、内容、カリキュラムを体系的に講述する。	中高
	保健体育科教育特論 I A	2		小
	保健体育科教育特論演習 I	2	体育科教育における実践研究を、教育実習、文献、資料を通して多角的に追求する。	中高
	保健体育科教育特論演習 I A	2		小
	保健体育科教育特論 II	2	ヘルスプロモーションの立場に立って「行動変容モデル」を適用した学校健康教育のあり方について追及する。	中高
	保健体育科教育特論 II A	2		小
	保健体育科教育特論演習 II	2	国内外の「健康教育」に関する文献・資料について分析し、「保健行動（実践）」の観点から教材づくりをはかる。	中高
	保健体育科教育特論演習 II A	2		小
体育学	体育学特論 I	2	運動学習に関わるスポーツに対する内発的動機づけの問題を体育・スポーツ心理学の領域から論究する。	中高
	体育学特論 I A	2		小
	体育学特論演習 I	2	体育・スポーツに関する内外で開発された心理検査を用いた調査分析及び活用法を演習し、スポーツ行動の心理的適性の問題を明らかにするための事例研究を行う。	中高
	体育学特論演習 I A	2		小
	体育学特論 II	2	体育・スポーツに関する諸問題、特に生涯スポーツのあり方について、歴史的、社会学的視点より論究し、スポーツの持つ意味について理解を深める。	中高
	体育学特論 II A	2		小
	体育学特論演習 II	2	体育・スポーツに関する諸問題について、歴史学、社会学の立場からフィールドワーク及び文献講読等を通して検討する。	中高
	体育学特論演習 II A	2		小
運動学	運動学特論 I	2	スポーツ運動の観察・分析・評価の方法を、代表的ないくつかの球技スポーツを題材にして検討するとともに、チームマネジメント及びスポーツコーチングの具体的方法とその問題点を明らかにして、競技指導研究のための基礎を形成する。	中高
	運動学特論 I A	2		小
	運動学特論演習 I	2	スポーツ競技の戦術理論及びその競技を構成する技術・戦術・体力の指導法を研究することによって、ジュニアレベルからナショナルレベルのコーチングについて学習する。また実際の指導的立場でのコーチングテクニックに関しても実習する。	中高
	運動学特論演習 I A	2		小
	運動学特論 II	2	運動による生体諸機能の変化の生理学的機序について考究し、さらに科学的根拠に基づく運動法（トレーニング法、運動処方）について論ずるとともに、その教育現場での応用について考察する。	中高
	運動学特論 II A	2		小
	運動学特論演習 II	2	「運動学特論 II」に関連する文献講読、ならびに実験を通して、児童・生徒を中心とする若年者の運動時の生理的応答について研究・討議する。	中高
	運動学特論演習 II A	2		小

分野	授業科目	単位	概要	教職課程	
運動学	運動学特論Ⅲ	2	陸上競技に関して、運動学的立場から考察する。	中高	
	運動学特論演習Ⅲ	2	運動学特論Ⅲに関する文献研究及び演習を行う。	中高	
学校保健学	学校保健学特論Ⅰ	2	児童・生徒の心身の健康問題について論じ、指導及びケアのあり方を学校保健学の立場から考察する。また、予防医学の観点から、疫学および生物学統計の基礎を学ぶ	中高	
	学校保健学特論ⅠA	2		小	
	学校保健学特論演習Ⅰ	2	学校保健学特論Ⅰに関する文献研究及び演習を行う。	中高	
	学校保健学特論演習ⅠA	2		小	
	学校保健学特論Ⅱ	2	学校保健に関する現代的課題について、文献検討およびヘルスプロモーションスクールの理念に基づき熟考する	中高	
	学校保健学特論ⅡA	2		小	
	学校保健学特論演習Ⅱ	2	学校保健に関する現代的課題解決の方策を検討し、演習を含め高度な実践力について熟考する	中高	
	学校保健学特論演習ⅡA	2		小	
分野外	教育実践科目	保健体育科授業研究	2	保健体育の授業の方法論と学習内容の追求、学習者の学習意識や意欲の把握など、授業分析論を基盤として教授・学習法を検討する。	中高
		保健体育科授業研究A	2		小
		保健体育科教材開発	2	保健体育教育の目的、役割を究明するとともに、学習者の欲求、能力や学習課題に応じた新しい教材を探究する。	中高
		保健体育科教材開発A	2		小
	課題研究	課題研究Ⅰ	2	修士論文作成に直結する課題について高度な研究を行う。現職教員には、教員実践を通して問題意識に十分留意して指導する。	
		課題研究Ⅱ	2		

3. 履修方法

○専門職学位課程の履修基準（履修最低単位数）

専門職学位課程（高度教職実践専攻）の修了要件は以下の履修基準表の通りです。

履修基準表

専攻	履修科目				計
	共通科目	選択科目	実習科目	課題研究	
高度教職実践専攻	20	10	10	8	48

- (1) 共通科目は、全員必修です。実習科目、課題研究は、取得希望免許種によって、履修科目が異なります。4-2)ならびに「教育学研究科規程」31～32 ページの別表を参照してください。
- (2) 選択科目は、5つの科目群の中から主に2つの科目群を選択し、合計10単位以上を履修します。科目群の選択にあたっては、指導教員の指導の下、自分の今後のキャリアなどをにらみながら適切な科目を選択してください。また、「特別支援教育に関する科目群」から選択するためには、「特別支援教育特論」を履修済みである必要があります。
- (3) 実習科目、課題研究は、特別支援学校教諭専修免許取得希望者については、4-2)に履修すべき科目を示しています。それ以外の院生は、「実習科目群」「課題研究科目群」から選択します。
- (4) 履修登録の上限は、年間で50単位です。

4. 教員免許（「教育学研究科規程」31～32 ページの別表もあわせて参照してください）

1) 取得できる免許状の種類

高度教職実践専攻において取得できる専修免許状は、以下の通りです。ただし、専修免許状の取得資格を得ようとする場合は、取得しようとする専修免許状の1種免許状を有することが必要です。

- ・小学校教諭専修免許状
- ・中学校教諭専修免許状
- ・高等学校教諭専修免許状
- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・養護教諭専修免許状
- ・栄養教諭専修免許状
- ・特別支援学校教諭専修免許状

2)免許取得のための必要単位数

- ① 幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状、高等学校教諭専修免許状、養護教諭専修免許状、栄養教諭専修免許状取得のためには、別表「教職課程」欄に当該免許種が書かれている授業科目から 24 単位以上取得しなければなりません。
- ② 特別支援学校教諭専修免許状取得のためには、特別支援教育に関する科目、特別支援教育に関する実習科目、特別支援教育に関する課題研究科目から 24 単位以上取得しなければなりません。履修すべき科目は、次表の通り、勤務校種等によって異なります。

	現職院生 (特別支援学校勤務)	非現職院生	現職院生 (特別支援学校以外勤務)
共通科目	共通科目 20 単位を履修する*		
選択科目	特別支援教育に関する科目群のうち、「特別支援教育特論」「特別支援教育システム論」を履修する		
	同科目群のうち、その他の科目から 2 単位履修する	同科目群のうち、その他の科目から 4 単位履修する	
	5 つの選択科目群（特別支援教育に関する科目群を含む）から 4 単位履修する		
実習科目	特別支援教育に関する実習科目群より、課題発見実習 I A（特別支援教育）*、課題発見実習 I B（特別支援教育）、課題発見実習 II（特別支援教育）を履修する		
	特別支援教育に関する実習科目群より、課題解決実習（特別支援教育）を履修する	実習科目群より、課題解決実習を履修する	
課題研究	特別支援教育に関する課題研究科目群 8 単位を履修する		

*印は、特別支援学校教諭専修免許状の課程認定を受けている科目ではないが、必修指定となっている科目

5. 修了要件等

課程の修了のためには、次の要件を満たすことが必要です。

- 1) 標準修了年限：標準修了年限は 2 年とします。なお、学生は 4 年を超えて在学することはできません。
- 2) 修了要件：共通科目 20 単位、選択科目 10 単位、実習科目 10 単位、課題研究 8 単位の計 48 単位以上を修得するとともに、課題研究の成果を公表し、専攻会議における審査に合格しなければなりません。

6. 学位

高度教職実践専攻の課程修了者には、教職修士（専門職）の学位を授与します。

(6) 高度教職実践専攻

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
共 通 科 目	① 教職課程の編成・実施に関する領域	教育課程編成の課題と実践	2 児童生徒の系統的な学びを見据えた現任（採用希望）校種の教育課程の編成について理解するとともに、現任（採用希望）校の実際を事例にしながら現在の教育課程の良さや問題点や反省点を分析しつつ、教育課程内外の活動の融合や個に応じた指導、時代や社会が要請する諸事項に応えうる教育課程編成の力量の向上を図る。特にカリキュラムマネジメント（カリキュラムを主たる手段として学校の課題を解決し、教育目標を達成する営み）の重要性を再認識し、とりわけ沖縄県の教育課題に応える教育課程の在り方に迫る。	幼小中高養栄
		指導と評価の課題と実践	2 現任（採用希望）校で実際に担当している教科指導を例にし、教科の目標と内容、評価の観点と具体的な評価規準、評価技法（方法）と評価基準についての理解を深めるとともに、児童生徒の学力の把握と個に応じた指導と支援の充実に応える指導と評価の計画を作成・提案する。とりわけ沖縄県の教育課題である「学力向上（学力不振からの脱却・学習意欲の向上）」に応えることに迫る。	幼小中高養栄
	② 教職課程の実践的な指導方法に関する領域	教授・学習の課題と実践	2 よりよい教授行為を行うためには、人がどのように学び、どのようにつまずき、どのように深まるかについて、実践的な知識を持つことが不可欠である。しかしそのような知見は、心理学の学習理論を視点として持ちつつ実践を見る目を養わなければ容易には身につかない。本授業はそのような人の学びのプロセスについて、知識・技能の習得と活用などの観点から理解し、それを踏まえて児童生徒のつまずきに対応した指導方法を知り、言語活動や協働学習なども含めた適切な学習指導方法を構想する力量の向上を図る。	幼小中高養栄
		思考・判断・表現力育成の課題と実践	2 人の思考の性質や思考を刺激する方法について理解するとともに、児童生徒の思考に対応したさまざまな指導方法を知り、児童生徒の思考・判断・表現の現状を想定しつつ、状況に合わせて適切な学習指導方法を構想できる力量の向上を目指す。	幼小中高養栄
	③ 生徒指導・教育相談に関する領域	生活指導・生徒指導の実践と課題	2 生活指導・生徒指導及び教育相談の意義や実践、課題等について理解するとともに、現任（採用希望）校の実際を事例にしながら現在の生活指導・生徒指導と実践上の問題点や反省点を分析しつつ、教育課程内外の活動の融合や個に応じた指導、時代や社会が要請する諸事項に応えうる生活指導・生徒指導の力量の向上を図る。	幼小中高養栄
		学校不応への実践と課題	2 学校不応及び特別支援の意義や実践、課題等について理解するとともに、現任（採用希望）校の実際を事例にしながら現在の生徒指導と実践上の問題点や反省点を分析しつつ、教育課程内外の活動の融合や個に応じた指導、時代や社会が要請する諸事項に応えうる学校不応及び特別支援教育の力量の向上を図る。	幼小中高養栄
	④ 学級経営・学校経営に関する領域	学級経営の実践と課題	2 学級経営の意義や実践、課題等について理解するとともに、現任（採用希望）校の実際を事例にしながら現在の学級経営と実践上の問題点や反省点を分析しつつ、教育課程内外の活動の融合や個に応じた指導、時代や社会が要請する諸事項に応えうる学級経営の力量の向上を図る。	幼小中高養栄
		学校改革の実践と課題	2 学校教育の現在と改革の方向性について、中央教育審議会答申等の基本資料を読みとりながら理解するとともに、実践事例を分析することによって、学校経営の構想力を養う。そのうえで、有効な学校改革ビジョンを作成する。	幼小中高養栄

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
共 通 科 目	⑤ 在 学 校 教 育 に 関 与 す る 教 員 の 領 域	学校教育・教員のあり方の 課題と実践	現在の学校教育に求められている役割について、中央教育審議会答申等の基本資料を読みとりながら理解するとともに、家庭や地域との連携に関わる実践事例を分析することによって、学校教育と教員の在り方について検討する。そのうえで、自身のこれまでの教員としての在り方について、合理的反省を行い、今後の指針を作成する。	幼小中高養栄
		沖縄の学校と社会	沖縄県の教育について社会とのかかわりなどより広い視野からの実態と課題の理解を進め、教育上の諸課題を明確にしなが ら、これまでの実践例を検討して、課題解決に有効な実践的な指導力を養う。	幼小中高養栄
選 択 科 目	学 習 指 導 に 関 す る 科 目 群	授業分析・リフレクション の理論と実践	学校教育実践を研究する際の主たる方法である授業研究について、その分析方法を学び実際の学校現場での研究に適用できることをねらいとする。授業では、実証的に評価する方法論とそれをどのように振り返りに活かすのかというリフレクションの在り方から構成する。	幼小中高養栄
		言語活動と協同学習	思考・判断・表現力や学習意欲、多様な人間関係を結んでいく力を育成する方法としての言語活動ならびに協同学習について理解するとともに、沖縄県の現状を幅広く知り、また先進校の実践に触れることを通して、適切な言語活動や協同学習を通して思考力や学習意欲、人間関係力を高める授業について構想できる力量の向上を目指す。	幼小中高養栄
		理数系授業づくりの理論と 実践	理科・数学（算数）は科学技術創造立国の基盤として特に重要であるが、国際学力調査等によれば、日本の子どもたちは、学年が上がるにつれ理数系科目への興味を失い、生活や将来の職業とも結び付きにくくなっているのが現状である。そのため、学校現場においては、子どもたちの理科・数学（算数）への興味関心を高める学習指導の改善・充実が求められている。本授業では、理科・数学（算数）の事例研究や模擬授業の実施を通して指導法の工夫や改善について学び、理科・数学（算数）における指導力の向上を図る。	
		授業づくりの理論と実践	授業力の向上に必要な指導技術等について理解するとともに、事例研究・グループ討議等の授業形態を取り入れた実践形式で授業を行う事によって、児童生徒の活用力を高める実践的指導力を養成する。	幼小中高養栄
		学習指導のための教材・教 具の開発と活用	学習意欲を高め、効果的な授業を行う上で、適切な教材・教具の開発や活用を行うことは重要な役割を持っている。そのため、学習教材・教具の開発・活用に当たっては、身近な素材や地域の特性を活かした取り組み、今後学校現場での活用場面の増加が予想されるICT機器等、についての効果的で適切な活用が求められている。これらの内容について個別の事例研究等を通して学び、教育現場に即した実践的指導力の向上を図る。	幼小中高養栄
		活用力としての教科外活動	教育課程における教科外活動の意義を検討した上で、活用力を使うことによる教育目標に対する有効性を確認する。また、積極的に教科外活動を活用する実践力を養う。	幼小中高養栄
		授業づくりと指導法の高度 化	課題研究などで各教科の授業実践に関する課題を設定した院生を対象に、教材内容や最適指導法を吟味し、教材研究法と学習指導の方法を考察する。そのことを通して、学力の向上の方途を解明する。問題の焦点は、受講者が課題解決に取り組む学校種・教科・単元の教材研究の具体的方法と、それを生かした学習指導の実際を構想できるようになることにある。	

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程	
選 択 科 目 群	生徒指導に 関する 科目	積極的生活指導・生徒指導	2	これまでの教育相談・生活指導・生徒指導を分析、検討した上で、幼稚園、小・中学校・高校における教育相談・生活指導・生徒指導の積極的な実践展開による有効性を確認する。また、積極的な教育相談・生活指導・生徒指導の実践的な展開を可能にする方略を含めた資質・能力を養う。	幼小中高養栄
	生徒指導に 関する 科目	いじめ問題への対応と課題	2	これまでのいじめ問題を分析、検討した上で、いじめ問題の実態把握、背景理解、解決過程を事例に即して検討し、有効性のある指導を確認する。また、いじめ問題への実践的な対応力を養う。	幼小中高養栄
	生徒指導に 関する 科目	子ども支援のための地域・保護者との協力関係づくり	2	学校教育は学校での児童生徒理解に基づく生徒指導を基盤として成立している。この授業では児童生徒を学校外で支える地域や保護者との協力関係づくりについて検討しながら、生徒指導上の課題解決に有効に活用していくための実践的な指導力を養う。その中で、具体的な地域や保護者との協力づくりについて、これまでの各自の取り組みを振り返り、意味付け、方法と成果及びその意義を確認していく。	幼小中高養栄
	生徒指導に 関する 科目	特別な支援を必要とするこどもの理解と実践	2	学校には、障害が認識されていないものの学習上又は生活上の困難のある子どもを含めて、様々な支援の必要な子どもたちがいる。特別な支援を必要とするこどもの適切な把握と対応策、保護者や関連諸機関との連携の在り方等について個別の事例研究等を通して学び、特別な支援を必要とするこどもへの適切な指導及び支援を行う力量の向上を図る。	幼小中高養栄
	生徒指導に 関する 科目	新時代子ども支援活動	2	沖縄県の生徒指導について実態に基づいて概観して、現代社会の新たな課題を踏まえた生徒指導の在り方について検討する。また新しい時代の生徒指導に向けた見識を広め、それを有効に活用しながら、課題解決に向けた実践的な指導力を養う。	幼小中高養栄
目 録	組 織 運 営 関 する 科 目 群	地域と学校の在り方	2	学校と地域との関係について、これまでの変遷を歴史的に学ぶとともに、現在、求められている学校と地域との連携について、中央教育審議会答申等の基本資料を読みとりながら理解する。また、PTAについては、これまでの経緯と同時に現在の課題を検討し、その解決に努める各地の実践例を詳しく調べる。そのうえで、現任校のPTAについて合理的反省を行い、地域を含めた有効な連携案を作成する。	幼小中高養栄
	組 織 運 営 関 する 科 目 群	校内研究組織の実践と課題	2	校内研究組織の在り方について検討し、より実践的で有効な校内研究組織の構築に向けた運用方法を理解する。また、模範的な校内研究組織を想定して検討することで、教育上の課題解決に有効に活用していくための実践的な指導力を養う。	幼小中高養栄
	組 織 運 営 関 する 科 目 群	組織的意思決定マネジメント	2	目的に達成する能力を効果的に伸ばし続けられる、学習する組織を作るためには、よりよい討議ができよりよい意思決定ができるようファシリテートする必要がある。そのために、事例を通して意思決定のプロセスを知り、適切な意思決定を妨げる要因やよりよい意思決定を促す方法を知るとともに、模範的な意思決定を受講生同士でファシリテーションすることにより、よりよい意思決定ができる組織を作り出す方法を構想できる力量を育成する。	幼小中高養栄
	組 織 運 営 関 する 科 目 群	教師の成長とメンタリング	2	受講者のこれまでの教職経験を振り返ることを出発点にし、初任者段階から教師としての職能開発・成長に何がどのように影響してきたのかを相互に交流する。現職院生は実際に学卒院生と教職大学院での教育課程全般で学びを共同して行く中で、経験の浅い者にどのような支援が適切なのか、どうすれば協働的人間関係・環境が構築できるのかを相互に検討・検証する。とりわけ教職員が協働・共同して沖縄県の教育課題に応える教職員集団のあるべき姿に迫る。	幼小中高養栄

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
選 択 科 目	学校経営に関する科目群	学校安全管理	学校現場が対応しなければならない安全管理について、児童生徒が被害者となりうる事象について、これまで起きた事件・事故（いじめ、正課中の事故など）や受講者の経験を基にその対応策を学ぶ。また、想定外の事象が生じた際の在り方をイメージすることを通して不測の事態に対応する資質・能力を養う。これらのことを元に、とりわけ沖縄県の教育課題にある「学習指導の充実」や「生徒指導の充実」に、ここで養われた資質能力が下支えになることをめざす。	幼小中高養栄
		学校マネジメント	学校経営を行ううえで不可欠の法的事項について概観したうえで、これまでに蓄積された学校教育に関わる裁判例を始めとした実際の事例を分析する。その際、判決文などを分析することによって、法的責任について理解する。そのうえで、自身がこれまでに体験した問題事例を振り返りながら、適切な処理とは何かを検討する。	幼小中高養栄
		学校と地域との連携の実践と課題	現在求められている学校と地域との連携について、現在の各人の勤務校（あるいは教育実習校）での実態を足掛かりに、中央教育審議会等の資料を読んで概観したうえで、成功例だけでなく失敗例を含めた実際の連携事例を検討し、その現状と課題を明らかにする。さらに、沖縄県で行われている実践事例について、自身の経験したものも含めて報告し、それを批判的に検討したうえで、改善プランを作成・提案する。	幼小中高養栄
選 択 科 目	特別支援教育に関する科目群	特別支援教育特論	障害児者を取りまく社会情勢の目まぐるしい変化に伴い、特別支援教育は大きく変革を遂げてきた。これまでの特殊教育から変遷してきた過程及び障害児者の教育について振り返り、障害のある個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進について検討する。また、特別支援学校が果たす役割（センター的機能）と組織的な運営について理明らかにした上で、障害のある子どもの体制整備について検討を加え、教育制度を踏まえた共生社会の実現に向けその方策について提案する。	特支（必修）
		特別支援教育システム論	「一人一人の教育的ニーズを把握し、必要な支援を提供する」という特別支援教育の理念を踏まえ、特別支援教育を多面的に理解し、インクルーシブ教育システム構築の具現化を図り、特別支援教育推進に向けたシステムについて把握する。さらに、特別支援学校の校内支援体制及びセンター的役割についての組織的運営の開発の展望を示す。	特支（必修）
		特別支援教育コーディネーター論	特別支援学校の特別支援教育コーディネーターは中核的存在であり、学校、保護者、関係機関との連携・調整という支援体制の構築及びセンター的機能としての域内の相談と支援体制の整備を担っている。特別支援学校におけるコーディネーターの果たす役割を、諸外国での取組及び特別支援教育の制度から概説し、その課題を明確にした上で、地域の特別支援教育の推進に向けたコーディネーターとしての専門性と資質について検討する。	特支
		特別支援教育の教育課程・授業特論演習	特別支援教育の教育課程を構成するために必要な基本的な概念と要件を検討する。障害児教育・特別支援教育の教育課程を歴史的に検討しながら、特別支援学校の教育課程及び授業の在り方について考察する。また、特別支援学級等における教育課程や授業の在り方についても考察する。さらに、障害のある児童生徒の発達に視点をあてた授業づくりとして、教育内容、教材・教具の検討、指導過程の検討を行い、個々の教育的ニーズに応じた教育実践を検討する。	特支
		特別支援教育・地域支援の理論と実践	重複・LD等（LD、ADHD、情緒）、自閉スペクトラム症、知的障害のある子どもたち、発達支援の必要な子どもたちとの関わりを通して特別支援教育と発達支援について理解を深める。子どもたちとの関わりや教育実践、地域支援活動を通して、子どもたちの日常の生活のなかの「共生社会の形成の基礎」となる体験から特別支援教育・インクルーシブ教育および地域発達支援の理論と実践について検討する。	特支

区分	授 業 科 目	単 位	概 要	教職課程
選 択 科 目	特別支援教育に関する科目群	障害児理解と教育実践・発達臨床支援	重複・LD等（LD、ADHD、情緒）、自閉症スペクトラム、知的障害のある子どもたちや 発達支援を必要とする子どもたちとの関わりについて理解を深めるとともに発達臨床的視点、心理学的視点をを用いて教育実践、発達臨床支援について検討する。さらに、専門家と連携・協働による「チームとしての学校」を展開、発展させ、地域における教育実践力について理解を深め、理論と実践の往還にて高度な障害児臨床支援における実践力を習得する。	特支
		肢体不自由児の理解と支援	特別支援教育における専門家として求められる技術や知識を念頭に置きつつ、肢体不自由教育に関する心理・生理・病理的側面についての基本的知識を学ぶ。また、それらをおさえた上で、教育課程と指導法を踏まえた授業づくりに関する発表とディスカッションにより理論と実践の往還を図る。	特支
		病弱児の理解と支援の探究	病弱児について、学習指導要領および解説を理解した上で、全国の教育センターや病弱特別支援学校のホームページなどから、多様な教育課程について検討する。また、全国の教育センターやインクルーシブ教育システム構築支援データベースを題材に授業案を分析するとともに、用いられている指導法について検討する。さらに、病弱者の心理、生理、病理について医学・医療、教育学、心理学的な立場から多面的に概説し、病弱教育の指導・支援及び評価について検討する。	特支
		重複障害児の理解と支援	特別支援教育における専門家として求められる技術や知識を念頭に置きつつ、重複障害教育に関する心理・生理・病理的側面についての基本的知識を理解する。また、それらを踏まえた上で、教育課程と指導法についての理論と実践（授業づくり）の検討する。	特支
実 習 科 目	実習科目群	課題発見実習Ⅰ	附属学校を中心とした実習学校での教育実践の観察を通して、児童生徒の成長と発達を支援する教師の役割を把握する。実習学校での学級活動、研究授業、校内研究会等に参加し、留意点等を理解する。	
		課題発見実習Ⅱ	公立学校を中心とした現任校（採用希望校）と同校種での実習学校での実習を通して、児童生徒の成長と発達を支援する学校教育活動を分析・評価し、改善点を考察する。	
		課題解決実習	現職院生（1年間派遣者）は現任校、学卒院生並びに2年間の派遣が許された現職院生は、現任校（採用希望校）と同校種の実習学校での実習で、自らの課題を解決するための教育実践を行う。その実践を分析・評価し、課題解決を図る。	
		インターン実習	教職未経験者（学卒院生）を対象に、課題解決実習に合わせて実習学校で副担任相当の業務をする実習を行う。教員就職後に即戦力として活躍できるための準備として、ジョブシャドウイングを行う。具体的には、教科指導や学級活動等では学級担任（教科担任）の業務を行う。校務分掌等についても実習指導担当教員の補助をしながら体験する。	
特別支援教育に関する実習科目群	課題発見実習ⅠA（特別支援教育）	1	附属学校を中心とした実習学校での教育実践の観察を通して、特別な支援が必要な児童生徒への指導・支援する教師の役割を把握する。実習学校での学級活動、研究授業、校内研究会等に参加し、留意点等を理解する。	（特支必修）
	課題発見実習ⅠB（特別支援教育）	2	課題発見実習ⅠAで明確になった課題に対し、視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱の各特別支援学校にて自己の課題研究テーマに沿って観察を中心とした実習を行い、教育実践における資質能力の向上と教育研究上の実践的課題の解決を教職大学院で学んだ理論と融合しさらなる課題の明確化と解決策を考察する。	特支（必修）
	課題発見実習Ⅱ（特別支援教育）	4	課題発見実習ⅠA・ⅠBで明確になった課題に対し、特別支援学校にて自己の課題研究テーマに沿って実習を行い、教育実践における資質能力の向上と教育研究上の実践的課題の解決のための授業実践と支援体制等の構築についての理論的背景を見だし、分析し（省察）自らの課題を明確にする。	特支（必修）

区分	授 業 科 目	単位	概 要	教職課程	
実 習 科 目	特別支援教育に関する 実習科目群	課題解決実習 (特別支援教育)	4	現職院生(1年間派遣者)は現任校,学卒院生並びに2年間の派遣が許された現職院生は,現任校(採用希望校)と同校種の実習学校での実習で,自らの課題を解決するための教育実践を行う。その実践を分析・評価し,障害のある子どもの指導・支援体制等の課題解決を図る。	特支(必修)
		インターン実習 (特別支援教育)	2	課題発見実習IIにおいて実習した特別支援学校における観察実習及び協働的实践を通して,障害や困難のある児童生徒の授業及び校務全般に関わり,自己の教員としての更なる資質能力の向上と教育研究上の実践的課題の発見と解決に取り組む。連携協力校(特別支援学校)での観察・協働実習から,障害のある児童生徒や教育的支援を要する児童生徒への授業実践と支援体制等の構築について分析し(省察)自らの課題を明確にする。	特支
課 題 研 究 科 目	課題研究科目群	課題研究I	2	受講者のこれまでの教職経験を振り返ることを出発点にし,学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するためには具体的に「何を」「どのように」するのかという方向性を明確にする。その課題の本質を受講生や担当教員との意見交換を通して明らかにする。	
		課題研究II	2	課題研究Iでの課題意識をベースに,課題発見実習IIの受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の本質を明らかにする。	
		課題研究III	2	課題研究I,IIでの課題意識をベースに,課題解決実習の受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の本質を明らかにする。	
		課題研究IV	2	課題研究I,II,IIIでの課題意識をベースに,課題解決実習の受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の何がどう解決し,まだ残る課題が何であるのかを明らかにする。	
	特別支援教育に関する課題研究科目群	課題研究I (特別支援教育)	2	受講者のこれまでの教職経験を振り返ることを出発点にし,学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するためには具体的に「何を」「どのように」するのかという方向性を明確にする。その課題の本質を受講生や担当教員との意見交換を通して明らかにする。	特支(必修)
		課題研究II (特別支援教育)	2	課題研究Iでの課題意識をベースに,課題発見実習IIの受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の本質を明らかにする。	特支(必修)
		課題研究III (特別支援教育)	2	課題研究I,IIでの課題意識をベースに,課題解決実習の受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の本質を明らかにする。	特支(必修)
		課題研究IV (特別支援教育)	2	課題研究I,II,IIIでの課題意識をベースに,課題解決実習の受け入れ先である連携協力校での課題と結びつけながら学校現場における今日的な教育課題を探り,それを解決するために具体的に解決策を実践する。その結果に対する考察を行い,受講生や担当教員との意見交換からその課題の何がどう解決し,まだ残る課題が何であるのかを明らかにする。	特支(必修)